Otemae University

本学学生の被服行動とYG性格特性との関連性について

On the Relationship between Clothing Behavior and YG Personal Factors of Otemae College Students

笹山益子　堀川諭※　青海邦子
Masuko SASAYAMA　Satoru HORIKAWA　Kuniko SEIKAI

1　はじめに

現代の女子大学生は、被服に対して高い関心を持ち、衣生活を自由に楽しんでいるように見受けられる。

被服行動は、一般に、社会的、心理的、経済的、および審美的要因などによって規定されるものであるが、反面「被服はパーソナリティ、あるいは自己を映し出したものと見ることができる」[1]と述べられていることから、心理的側面からの検討がとりわけ重要となろう。

本研究では、女子短期大学生を対象にして、YG性格検査を用いた心理尺度テストと被服、色彩、髪型の嗜好、および被服着用に関するアンケート、ならびにパネル調査を併せて実施し、女子短期大学生の性格特性が、被服（色彩や髪型の嗜好も含む）に対する意識や行動といかに関連するかについて検討したので報告する。

2　調査の概要と目的

2・1　調査の対象者

本学の服飾学科・生活文化学科・秘書学科の女子学生199名（有効数）を対象とした。

2・2　調査時期

1991年5月20日～5月25日

2・3　調査方法

被服に対する意識と行動に関する調査では、質問紙を配布し被験者の一部カラーチャートおよび写真を提示し集合調査を行い、心理的スケールについては、YG性格検査を質問紙法形式で同様に集合調査を実施した。

※大手前女子大学

NII-Electronic Library Service

Otemae University

2・4　調査内容

〔1〕 被服に対する意識と行動では、質問紙法による34問の設問と被験者にカラーチャート1[2]を提示して一番好きな色を選択させるパネル調査を実施した。カラーチャート1の内容は表1の通りである。

カラーについては75色をカラーチャート（表2）のように、色相別14のグループに分類した。

次に、髪型のカタログ[3]（図1）を、被験者に提示して好きな髪型を選択させた。

さらに、6葉の振り袖の着装カラー写真（その内容は表3に示す）を雑誌[4]より選択し、被験者に提示して着てみたい振り袖を選択させた。

次いで、その振り袖の選んだ理由（表4）1つを選択させた。

表1　カラーチャート内容一覧（カラーチャート1）

tone \ hue	Red	Orange	Yellow	Yellow Green	Green
pale	① pale pink	② pale beige	③ pale yellow	④ pale yellow green	⑤ pale green
light grayish	⑪ grayish pink	⑫ beige	⑬ grayish yellow	⑭ grayish yellow green	⑮ light grayish green
dull	㉑ dull red	㉒ strong orange	㉓ olive yellow	㉔ dull yellow green	㉕ dull green
light	㉛ pink	㉜ light orange	㉝ light yellow	㉞ light yellow green	㉟ light green
vivid	㊶ vivid red	㊷ vivid orange	㊸ vivid yellow	㊹ vivid yellow green	㊺ vivid green
deep	㊿ deep red	52 brownish gold	53 olive yellow	54 deep yellow green	55 deep green
dark	61 dark red	62 brown	63 olive	64 olive green	65 dark green
neutral	—	—	—	—	—

tone \ hue	Blue Green	Blue	Violet	Purple	Red Purple
pale	⑥ pale greenish sky	⑦ pale sky	⑧ pale lavendar	⑨ pale lilac	⑩ pale purplish pink
light grayish	⑯ light grayish green	⑰ light grayish blue	⑱ light grayish violet	⑲ light grayish purple	⑳ grayish pink

NII-Electronic Library Service

Otemae University

表1　カラーチャート内容一覧表（カラーチャート1）

tone ＼ hue	Blue Green	Blue	Violet	Purple	Red Purple
dull	㉖ dull blue green	㉗ dull blue	㉘ dull violet	㉙ dull purple	㉚ dull red purple
light	㊱ light turquoise	㊲ light blue (sky)	㊳ light violet (lavender)	㊴ light purple (lilac)	㊵ purplish pink
vivid	㊻ vivid blue green	㊼ vivid blue	㊽ vivid violet	㊾ vivid purple	㊿ vivid red purple
deep	⑤⑥ deep blue green	⑤⑦ deep blue	⑤⑧ deep violet	⑤⑨ deep purple	⑥⓪ deep red purple
dark	⑥⑥ dark greenish blue	⑥⑦ dark blue	⑥⑧ dark violet	⑥⑨ dark purple	⑦⓪ dark red purple (wine)
neutral	⑦① white	⑦② light gray	⑦③ medium gray	⑦④ dark gray	⑦⑤ black

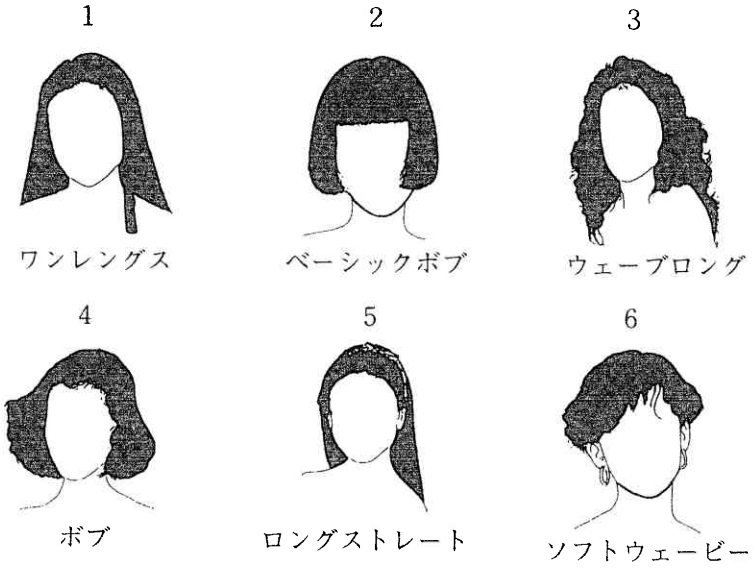

図1　ヘアスタイル

表2　カラーチャート　（色相別分類）

		カラーチャート／色番号			カラーチャート／色番号
1	red 系	㉑ ㊶ ⑤① ⑥①	8	blue 系	⑥⑥ ⑥⑦ ⑰ ㉗ ㊲ ㊼ ⑤⑦ ⑥⑦
2	pink 系	⓪① ⑩ ⑪ ⑳ ㉛ ㊵	9	violet 系	⑧ ⑱ ㉘ ㊳ ㊽ ⑤⑧ ⑥⑧
3	orange 系	⓪② ⑫ ㉒ ㉜ ㊷ ⑤② ⑥②	10	purple 系	⑨ ⑲ ㉙ ㊴ ㊾ ⑤⑨ ⑥⑨
4	yellow 系	⓪③ ⑬ ㉓ ㉝ ㊸ ⑤③ ⑥③	11	red purple 系	㉚ ⑤⓪ ⑥⓪ ⑦⓪
5	yellow green 系	⓪④ ⑭ ㉔ ㉞ ㊹ ⑤④ ⑥④	12	white	⑦①
6	green 系	⓪⑤ ⑮ ㉕ ㉟ ㊺ ⑤⑤ ⑥⑤	13	gray 系	⑦② ⑦③ ⑦④
7	blue green 系 (turquoise)	⑯ ㉖ ㊱ ㊻ ⑤⑥ ⑥⑥	14	black	⑦⑤

NII-Electronic Library Service

Otemae University

表3　振り袖の説明

1	濃青緑地に花と唐子模様柄で大正ロマン風
2	赤地に黒と金のぼかし分けで花柄で古典的
3	緑色地に辻が花柄で現代的
4	桃色地に金糸の雲取り柄で古典的
5	紫地に青緑と黒のぼかし分けでモダンな花柄で現代的
6	黄土色と青地の裾濃きものに御所解文様で古典的

表4　振り袖の選択した理由

1	昔からある柄で、和服向きの模様だから
2	柄が洋服感覚で現代的だから
3	豪華だから
4	自分に似合いそうだから
5	全体の色の調和が好ましいから
6	その他

〔2〕 YG性格検査[5] (矢田部・ギルフォード性格検査) は数ある心理検査の中では、多次元的な性格特性を同時に測定することを目的に作成された検査で質問紙法による120問の回答から、12項目 (表5) の性格特性の粗点を算出して性格のプロフィールを見ようとするものである。本調査では12尺度の各特性の粗点から個人得点を12尺度毎に算出し、平均値、標準偏差値を特性間の相関係数及び、12特性についての主成分分析を行った。

表5　性格特性12項目

D. 抑うつ性 (depression)	Ag. 愛想のないこと (lack of agreeableness)
C. 回帰性傾向 (cyclic tendency)	G. 一般的活動性 (general activity)
I. 劣等感 (inferiority feelings)	R. のんきさ (rhathymia)
N. 神経質 (nervousnness)	T. 思考的外向 (thinking extraversion)
O. 客観性がないこと (lack of objectivity)	A. 支配性 (ascendance)
Co. 協調性のないこと (lack of cooperativeness)	S. 社会的外向 (social extraversion)

2・5　集計および解析方法

〔1〕 集計方法

被服に対する意識と行動に関する調査では、質問紙法 (34設問) とパネル調査を併用した。

YG性格検査を実施して得られた性格特性尺度 (12特性) の粗点を算出し、検査用紙に記載されているパーセンタイル値から5段階判別の標準得点を判定した。

さらに、標準点を下位 (1、2)、中位 (3)、上位 (4、5) のクラスに分けて12尺度の粗点と標準点クラスを解析に用いた。

〔2〕 解析方法

被服行動調査は各項目の頻度集計を行った。YGテストについては粗点平均値、偏差値を求めた。次いで、被服行動調査の項目間およびYGテスト (特性) と被服行動項目間の関連

NII-Electronic Library Service

Otemae University

性について、統計的検定（χ^2検定）を用いて検討を行った。

さらに、12特性間の相関行列を求め、この相関行列から主成分分析を適用して特性値の意味づけを検証した。ここで算出された主成分と因子負荷量から各主成分とYG特性間の関連性と意味について検討した。

なお、計算処理には、京都大学大型計算機センターのM780／30を利用し行い、種々の統計解析には同センターに登録されている統計アプリケーションソフトウェアのSAS (Statistical Analysis System)[6] を用いた。

3　結果および考察

3・1　被服行動調査について

（1）　頻度集計

今回の被服行動に関するアンケート調査を実施するにあたっては、以下に示す主要な要因についての動向を把握することが目的の一つであった。つまり、

1．被服に対しての全般的な関心度
2．被服における同調性に対する反応と評価
3．被服による自己表現のしかたと優越意識との関連
4．被服着用における性的魅力のとらえ方
5．被服と流行についての意識
6．被服素材に関する知識と活用に対する問題
7．被服の購買意識の動向

といった7点に括ることができる。そこで頻度集計の結果よりやや詳細に述べて検討を行った。

頻度集計結果を表6に示す。

まず、本学学生の被服に対する関心の高さを、(Q02) 着るものにこだわる者140人（70.3%)、(Q10) 服装は自己表現の有力な手段であると思う者141人（70.8%)、(Q18) 今日はどんな服を着ようかと考えるのが楽しい者93人（46.7%)、(Q19) 外出時に着る服が無くて外出がいやになることがある者140人（70.4%)、(Q26) 服装によって美しく変身するのが楽しい者166人（83.4%）という調査結果から読み取ることができる。

人間は「常に他人と同じでありたい、世間なみ、他人並みという同調を望みながら、他人と同じでありたくない、個性化、優越性を望んでいる[7]」という矛盾を持っているが、(Q04) T.P.O.に合わせて適切な服を選んでいる者126人（63.3%)、(Q06) 女性の目を意識して服を着ている者96人（48.3%)、(Q09) 自分の服装に対して他人がどう思っているかを気にする方である者118人（59.3%)、(Q29) おもに母と服を買いにいく者86人（32.9%)、および女友達と買いに行く者80人（30.7%）となった調査結果を見る限り、同調（同一化）

NII-Electronic Library Service

Otemae University

表6　被服行動

	設問項目	カテゴリー	度数(人)	頻度(%)
Q01	あなたは上手に服を着こなしていると思いますか。	1そう思う	29	14.6
		2そう思わない	78	39.2
		3わからない	92	46.2
Q02	人間は服装よりも自分自身が大切だから、着るものにこだわらない方が良いと思いますか。	1そう思う	19	9.6
		2そう思わない	140	70.3
		3わからない	40	20.1
Q03	あなたは他人と同じような服装をするのが嫌いなので、個性的な服を着るほうが良いと思いますか。	1そう思う	81	40.7
		2そう思わない	55	27.6
		3わからない	63	31.7
Q04	あなたはT・P・Oに合わせて適切な服を選んでいると思いますか。	1そう思う	126	63.3
		2そう思わない	18	9.1
		3わからない	55	27.6
Q05	あなたは男性の目を意識して服を着ていると思いますか。	1そう思う	63	31.7
		2そう思わない	88	44.2
		3わからない	48	24.1
Q06	あなたは女性の目を意識して服を着ていると思いますか。	1そう思う	96	48.3
		2そう思わない	53	26.6
		3わからない	50	25.1
Q07	あなたは夏祭には浴衣(ゆかた)を着たいと思いますか。	1そう思う	175	87.9
		2そう思わない	20	10.1
		3わからない	4	2.0
Q08	あなたは服を購入する場合、素材が天然繊維の服(綿・麻・絹・毛)を主に選んでいると思いますか。	1そう思う	75	37.7
		2そう思わない	87	43.7
		3わからない	37	18.6
Q09	あなたは自分の服装に対して他人がどう思っているかを気にするほうですか。	1そう思う	118	59.3
		2そう思わない	55	27.6
		3わからない	26	13.1
Q10	あなたは服装は自己表現の有力な手段であると思いますか。	1そう思う	141	70.8
		2そう思わない	34	17.1
		3わからない	24	12.1
Q11	あなたは正月には着物を着たいと思いますか。	1そう思う	149	74.9
		2そう思わない	38	19.1
		3わからない	12	6.0
Q12	あなたはどちらかというと目立たない地味な服装が好きですか。	1そう思う	44	22.1
		2そう思わない	109	54.8
		3わからない	46	23.1
Q13	あなたは周囲の人達と同じような服装をしている方が気持ちが落ちつくように思いますか。	1そう思う	57	28.6
		2そう思わない	84	42.2
		3わからない	58	29.2
Q14	あなたは少し高価でもデザインと品質のよいものを選んでいると思いますか。	1そう思う	96	48.3
		2そう思わない	50	25.1
		3わからない	53	26.6
Q15	あなたは最近、母・姉や自分の服を仕立直し(リフォーム)して着ることがありますか。	1そう思う	31	15.6
		2そう思わない	159	79.9
		3わからない	9	4.5
Q16	あなたは服の枚数は比較的少なくても上手に組合せて変化をつけたいと思いますか。	1そう思う	180	90.5
		2そう思わない	11	5.5
		3わからない	8	4.0
Q17	あなたは流行の最先端の服を着るのは恥ずかしいですか。	1そう思う	46	23.1
		2そう思わない	109	54.8
		3わからない	44	22.1
Q18	あなたは今日はどんな服を着ようかと考えるのは楽しいですか。	1そう思う	93	46.7
		2そう思わない	71	35.7
		3わからない	35	17.6
Q19	あなたは外出する時に着る服がなくて外出がいやになることがありますか。	1そう思う	140	70.4
		2そう思わない	40	20.1
		3わからない	19	9.5
Q20	あなたは流行に流されるのが嫌いで、はやりすたりのない服を選ぶほうですか。	1そう思う	108	54.3
		2そう思わない	50	20.1
		3わからない	51	25.6
Q21	あなたは新しい服を買う時には気に入ったらすぐに買いますか。	1そう思う	107	53.8
		2そう思わない	67	33.7
		3わからない	25	12.5
Q22	あなたは安くてもよいから数多くの服をもちたいと思いますか。	1無回答	1	0.5
		2そう思う	53	26.6
		3そう思わない	104	52.3
		4わからない	41	20.6

NII-Electronic Library Service

Otemae University

表6　被服行動

	設問項目	カテゴリー	度数(人)	頻度(%)
Q23	あなたは人の服装を見ていろいろと批判する方ですか。	1そう思う	78	39.2
		2そう思わない	994	47.2
		3わからない	27	13.6
Q24	あなたは自分で服を作ることがありますか。	1そう思う	32	16.1
		2そう思わない	157	78.9
		3わからない	10	5.0
Q25	あなたは流行を追うつもりはないのに、いつの間にか流行に乗せられていることがありますか。	1そう思う	107	53.8
		2そう思わない	53	26.6
		3わからない	39	19.6
Q26	あなたは服装によって美しく変身するのが楽しみですか。	0無回答	1	0.5
		1そう思う	166	83.4
		2そう思わない	11	5.5
		3わからない	21	10.6
Q27	あなたは有名ブランドの服を着てみたいと思いますか。	1そう思う	133	66.8
		2そう思わない	35	17.6
		3わからない	31	15.6
	設問事項	カテゴリー	度数(人)	頻度(%)
Q28	有名ブランドの服を着てみたいと答えた人	1 優越感がえられるから	14	10.5
		2 品質がすぐれているから	25	18.8
		3 デザインがすぐれているから	49	36.9
		4 自分の自己満足のため	35	26.3
		5 高価だから	8	6.0
		6 その他	2	1.5
Q29	あなたは服を買うときは主に誰と買いに行きますか。	1 1人で	63	24.1
		2 女友達と	80	30.7
		3 男友達と	5	1.9
		4 父と	1	0.4
		5 母と	86	32.9
		6 兄弟・姉妹と	23	8.8
		7 祖父・祖母と	0	0.0
		8 叔父・叔母と	1	0.4
		9 その他	2	0.8
Q30	あなたは成人式にはどのような服を着たいと思いますか。	1 振り袖	181	91.0
		2 袴姿	1	0.5
		3 ロングドレス	0	0.0
		4 ドレッシーなワンピース	3	1.5
		5 フォーマルなスーツ	9	4.5
		6 その他	5	2.5
Q31	あなたは卒業式にはどのような服を着たいと思いますか。	0 無回答	1	0.5
		1 振り袖	21	10.6
		2 袴姿	152	76.4
		3 ロングドレス	4	2.0
		4 ドレッシーなワンピース	6	3.0
		5 フォーマルなスーツ	14	7.0
		6 その他	1	0.5
Q32	あなたは花嫁衣装にはどれを着たいと思いますか。	1 ウエディングドレス	75	37.7
		2 白無垢（しろむく）に打掛け	3	1.5
		3 1と2の両方	118	59.3
		4 その他	3	1.5
Q33	あなたはジーンズをはくのが好きですか。	1 好き	139	69.8
		2 嫌い	26	13.1
		3 わからない	34	17.1
Q34	ジーンズをはくのが好きと答えた人は理由を書いてください。	1 手入れが簡単	20	13.0
		2 スタイルがよくみえる	6	3.9
		3 上着の組合せが簡単であるから	88	57.1
		4 女性らしさを強調できるから	0	0.0
		5 その他	40	26.0

を重視したものといえる。同調は、現存する社会規範に自分を合わせることであり、社会生活を安定化させる。しかしながら、(Q12) どちらかというと目立たない地味な服装は好きではない者109人（54.8%）や（Q13）周囲の人達と同じような服装をしている方が気持ちが落ちつくように思わない者84人（42.2%）という一見同調に反する態度もみられるが、これは、「服装規範（服装の社会的習わし）に対しては、女子学生は中年女性より自由な態

NII-Electronic Library Service

Otemae University

度を持っている」という研究報告[8]に見られるように、時代と共に若年層の服装に対する意識や考え方の変化によるものと考えられる。以上の同調に関する調査結果は前回の調査[9]と同傾向にあった。

他方、服装での自己表現(個性化)の願望は、(Q03) 個性的な服を着る方がよいと思う者81人 (40.7%) とやや少ない。

優越性や威信的価値観については、(Q14) 少し高価でもデザインや品質のよいものを選んでいると思う者96人 (48.3%)、(Q22) 安い服を数多く持ちたくない者104人 (52.3%)、(Q27) 有名ブランドの服を着てみたい者133人 (66.8%) から、かなり多くの学生が優越性を望んでいることがわかる。

性的魅力への願望は、(Q05) 男性の目を意識して服を着ている者63人 (31.7%) とあまり多くないことが認められる。また、女性、特に若年層では意識的でなくても、乳房や臀部(性差の特徴)の形がよくみえるように気を配り、お尻にぴったりフィットしたタイトスカートやジーンズを好む[10]とされているが、本学学生の場合も (Q33) 139人 (69.8%) がジーンズを好んでいる。しかし、ジーンズをはく理由をみれば、①上着の組合せが簡単であるから88人 (57.1%)、②その他 (活動的16人、楽である10人など) 40人 (26.0%)、③手入れが簡単であるから20人 (13.0%) などで、性的な面については、潜在意識はあるにしても表面には全く出ていない。

流行に対しては、(Q17) 流行の先端の服を着るのは恥ずかしくない者109人 (54.8%)、(Q25) いつの間にか流行にのせられている者107人 (53.8%) であることから、半数以上が流行を追っているようである。

経済的な考え方をしているのは、(Q16) 服の枚数は比較的少なくても上手に組み合わせて変化をつけたい者180人 (90.5%)、(Q20) はやりすたりのない服を選ぶ者108人 (54.3%) からわかるが、(Q15) 最近リフォーム (仕立て直し) して着ない者159人 (79.9%)、(Q24) 自分で服を作らない者157人 (78.9%)、(Q21) 新しい服を気にいったらすぐに買う者107人 (53.8%) という若者らしい反面もうかがえる。しかし、31人 (15.6%) がリフォームしており、豊かな現代であってもなお物を大切にする精神が読み取れて心強い。

服の素材については、(Q08) 天然繊維の服を選ぶ者が75人 (37.7%) とかなり少なくなっているが、これは、安価な合成繊維が大量に市場に出まわり、その結果、衣服には財産としての価値はなくなり、また、必要に応じて貸衣裳を利用するという現代の衣生活の状況に即応しているものと推察できる。

和服着用度の項目では、質問の「夏祭には浴衣」が175人 (87.9%)、「お正月には着物」が149人 (74.9%) とそれぞれ高比率で着たいと思っている。1988年に実施した調査[11]と比較すると、「浴衣」が84.2%、「着物」が73.3%であり、和服の着用比率が漸次増加の傾向を示している。この原因について考察してみると、最近の傾向として各種行事がイベント

NII-Electronic Library Service

Otemae University

化し、価値意識の多様化のなかで衣生活にもある程度余裕が出来、伝統的衣服である和服についてもT.P.O に併せて着用しようとする意識の顕れと考えられる。このような風潮または時流のなかで女子学生の和服着装意識について考えてみると、本調査結果では、人生の節となるべき儀式においても意識変化を読みとることができる。たとえば、儀式（卒業式、成人式）における着用度をみれば、卒業式では「袴姿」が152人（76.4％）で最も多く、次いで「振り袖」が21人（10.6％）、「フォーマルなスーツ」14人（7.0％）となっている。一方、成人式では、逆に「袴姿」を希望するものはわずか１人に過ぎず、「振り袖」が181人（91％）と圧倒的に多い結果となった。前回[12]の調査結果では、成人式に「振り袖の着用」を希望する者が85.4％であったが、本調査と比べて見ると大幅にのびていることがわかる。最近の日本繊維機械学会誌[13]による「女子学生の晴れ着に関する意識調査」によれば、「フォーマルな場面における晴れ着の選び方では、成人式には振り袖、卒業式には袴姿を着用したい者が多い」という報告があるが、我々の調査結果と対応パターンの同一傾向がうかがえられる。

次に振り袖についての着装意識について見ると、振り袖は未婚女性の第一礼装といわれており、着装の年令期間も未婚時代という長い伝統的習慣があり、被験者の意識には祖父母、両親からこのような意識は十分知悉しており、人生の大切な節目である成人式には振り袖を着たいと大半の被験者が望んでいる。

次いで、袴については、日本女性服飾史[14]によれば『「明治20年１月17日に婦人服制について皇后の思召集が出されその中で袴の着用を示唆されている。」となっている。これらの時期から袴は女学校や女子師範学校の生徒に普及され、女袴は女学生という立場を示す制服でもあった。袴は次の大正時代に洋服の制定を見るまでつづいて用いられた。』（取意）とある。袴姿は影をひそめていたが、９年前の朝日新聞[15]によると「今年は関西の卒業式には、はかまの人気が増加しつつあり復古調の兆しが見受けられる」と報道している。そして、現在に至り、益々卒業式には袴姿が人気を増しブームを煽っているように思われる。本調査においても学生が着たいと希望している意識と合致している。つまり、学生間では節々となる儀式には衣服の着わけをして衣生活を楽しんでいる傾向がみられる。

次いで「花嫁衣裳にはどのような衣服を着たいと思いますか」では、「ウェディングドレスと白無垢に打ち掛けの両方」が118人（59.3％）で過半数以上の者が回答し、次いで「ウェディングドレス」が75人（37.7％）、「白無垢に打ち掛け」と「その他」が３人（1.5％）となっている。

現在の披露宴はますます華美化し、お色直しにおける「白無垢に打ち掛け」衣裳と「ウェディングドレス」の着用はごく平均的とさえいえる状況のなかで、本調査における学生の希望と一致しており、時流れを反映したものといえるだろう。

NII-Electronic Library Service

Otemae University

3・1・2　髪型の嗜好度について

好きなヘアスタイルは、表7のようにソフトウェービー60人 (30.2%) であり、次いで、ロングストレート58人 (29.2%)、ワンレングス54人 (27.1%) の順になっている。ソフトウェービーのヘアスタイルとは、ショートヘヤーにソフトなパーマのグランデーションのヘヤスタイルである。髪型クリップ'91[16] によれば「女らしいドレスにはロングヘヤーというのは昨年までのスタイルであったが、今年はボーイッシュでショートカット風のヘヤースタイルがヒットする」(取意) とあるが、この結果とも一致した結果となっている。トータルファッションに敏感な学生が髪型嗜好についても流行に敏感な反応を示す結果となったのであろう。

表7　ヘアスタイルの嗜好度

項　　目	度数 (人)	頻度 (%)
1 ワンレングス	54	27.1
2 ベーシックボブ	1	0.5
3 ウェーブロング	20	10.0
4 ボブ	6	3.0
5 ロングストレート	58	29.2
6 ソフトウェービー	60	30.2

3・1・3　色彩嗜好調査

好きな色を調査した結果 (表8)、1位がblue系61人 (31.3%) であり、次いで2位violet系25人 (12.8%)、3位red purple系24人 (12.2%)、4位green系22人 (11.2%) と続く。日本色彩研究所による色彩嗜好調査[17] によれば、「20才前後の女性色彩嗜好順位では1972～1980年までは1位Red、2位Whiteになっているが、1981年度の調査では1位Red、2位Whiteと逆転はしているものの女性の色彩嗜好においては白色と赤色が支持されている」という報告があるが、今回の調査ではWhite、Red系はそれぞれ9位と10位と低位であり報告書と相違がみられる。前回[18] の調査結果では、1位「pink系31.5%」、2位「blue系 (17.5%)」、3位「white (10.9%)」となり、本調査の結果とは明らかに異なっている。

被服心理学研究分科会誌[19] による男らしさ、女らしさと色の選び方の文献によれば、「色に見られる性差について、色相では黒、灰、青は男の色、赤、橙、黄は女の色と区別されている。男性は青系統の冷たい色を、女性は赤系統の暖かい色を好むようである。さらに、男性色彩、女性色彩の意味論的特質の中では、男性色彩にはあまり明確的な特徴がないか、強いていえば、黄ー緑系の色がこれに当たり、これは外界を素直に受容し、それとの緊張関係を作らない現実肯定的な心理を現すものである。一方、女性色彩の特徴はピンクと紫系の色

NII-Electronic Library Service

Otemae University

になる。ピンクは力量性の低い色で、何かに依りすがりたいという依存傾向を現す色である。一方、紫系の色は、外界との緊張関係の中で、ねばり強くことをやりぬこうとするシンの強さを現す。」という記述がなされている。本調査の学生と前回[20]（1985年）の学生との色彩嗜好を比較すると、性差では男性の色と女性の色に分かれる。色彩の意味の特質では、粘り強く芯の強さのイメージが選好されている。一方、何かに依りすがりたいというイメージが選好されており、女子学生気質の差異が認められ、興味深い結果となった。

日本色彩学会誌[21]による衣服嗜好色の研究では「20代～60代の女性における洋服の嗜好色１位blue系を選んでいる。これは流行色に左右されているともいえよう。」（取意）とあるが、我々の調査は色彩嗜好であるが、衣服嗜好色とも一致している。

表８　単色嗜好度

項　　目	度数（人）	頻度（%）
1 red系	4	2.0
2 pink系	11	5.7
3 orange系	8	4.1
4 yellow系	4	2.0
5 yellow green系	3	1.5
6 green系	22	11.2
7 blue green系	8	4.1
8 blue系	61	31.1
9 violet系	25	12.8
10 purple系	17	8.7
11 red purple系	24	12.2
12 white系	6	3.1
13 gray系	0	0.0
14 black系	3	1.5

３・１・４　.振り袖の嗜好性と選択行動について

「振り袖の選択」と「選択した理由」を調査した結果をそれぞれ表９、表10に示す。

表によると着て見たい振り袖では、「赤地に黒と金のぼかし分けで花柄で古典的」が68人（34.2％）で１位となり３割以上の人が選好している。２位、３位はほぼ同比率で「黄土色と青地の裾濃のきもの御所解文様で古典的」が37人（18.6％）、「紫地に青緑と黒のぼかし分けでモダンな花柄」が36人（18.1％）と選ばれている。一方、「濃青緑地に花と唐子模様柄で大正ロマン風」が14人（7.0％）で最下位である。前回[22]の調査を柄感覚みれば、１位が「古典的、49.2％」、２位が「現代的、17.0％」、３位が「大正ロマン風、13.7％」となり、本調査の結果と微妙に異なっている。この結果によれば、本調査の学生は振り袖の選択においては、現代的感覚よりも伝統的感覚で古典的な方を選好し支持されている。

NII-Electronic Library Service

Otemae University

表10によれば、着てみたい振り袖を選んだ理由としては「全体の色の調和が好ましいから」が88人 (44.2%) で最も多く、次いで「自分に似合いそうだから」が42人 (21.1%)、「豪華だから」34人 (17.1%) の順になっている。一方、「柄が洋服感覚で現代的だから」が5人 (2.5%) と極めて少ない。前回[23]の調査の同一設問の結果では、「柄は洋服感覚で現代的だから」が12.2%であったが、今回調査においては減少気味である。更に「豪華だから」についてみれば、前回[22]では7.0%に対して、今回は17%となっており、著しく増加している。今回の調査結果においては、着物を洋服のイメージで選択していたと思われる項目の「柄が洋服感覚なので選んだ」では支持が減少している。反面「豪華だから」の支持が増加している。このような結果から考えて見ると、和服に対するイメージが被験者 (女子学生間) 層において4年間の間に微妙に変化していることがこの結果からうかがえられる。

表9　振り袖の選択

項　　目	度数 (人)	頻度 (%)
1 濃青緑地に花と唐子模様柄で大正ロマン風	14	7.0
2 赤地に黒と金のぼかし分けで花柄で古典的	68	34.2
3 緑色地に辻が花柄で現代的	16	8.0
4 桃色地に金糸の雲取り柄で古典的	28	14.1
5 紫地に青緑と黒のぼかし分けでモダンな花柄で現代的	36	18.1
6 黄土色と青地の裾濃きものに御所解文様で古典的	37	18.6

表10　振り袖の選択した理由

理　　由	度数 (人)	頻度 (%)
0 無回答	1	0.5
1 昔からある柄で、和服向きの模様だから	20	10.1
2 柄が洋服感覚で現代的だから	5	2.5
3 豪華だから	34	17.1
4 自分に似合いそうだから	42	21.1
5 全体の色の調和が好ましいから	88	44.2
6 その他	9	4.5

3・2　YG性格検査の12特性について

(1)　頻度集計

YG性格特性尺度の各項目の頻度集計結果は表11に示す通りである。

この1：低得点者、2：平均得点者、3：高得点者という被験者の得点分布から、各性格特性項目を次の6タイプに分類することができた。

NII-Electronic Library Service

Otemae University

表11　ＹＧ性格特性尺度

	項　　目	度数（人）	頻度（%）
D　抑うつ性	1　楽天的	122	61.3
	2　普通	73	36.7
	3　陰気	4	2.0
C　回帰性傾向	1　冷静	87	43.7
	2　普通	102	51.3
	3　感情的	10	5.0
I　劣等感の強いこと	1　自信家	51	25.6
	2　普通	128	64.3
	3　自信欠如	20	10.1
N　神経質	1　神経質でない	91	45.7
	2　普通	93	46.7
	3　神経質	15	7.6
O　客観的でないこと	1　客観的	88	44.2
	2　普通	78	39.2
	3　主観的	33	16.6
Co 協調的でないこと	1　協調的	42	21.1
	2　普通	70	35.2
	3　非協調的	87	43.7
Ag 愛想の悪いこと	1　消極的	92	46.2
	2　普通	87	43.7
	3　積極的	20	10.1
G　一般的活動性	1　非活動的	47	23.6
	2　普通	116	58.3
	3　活動的	36	18.1
R　のんきさ	1　慎重	17	8.5
	2　普通	112	56.3
	3　のんき	70	35.2
T　思考的外向	1　熟慮的	135	67.9
	2　普通	49	24.6
	3　非熟慮的	15	7.5
A　支配性	1　服従的	65	32.7
	2　普通	111	55.8
	3　支配性大	23	11.5
S　社会的外向	1　地味な人柄	139	69.9
	2　普通	51	25.6
	3　社交的	9	4.5

タイプ１にはＤ（抑うつ性）、Ｔ（思考的外向）、Ｓ（社会的外向）が属するが、これは低得点者が相当多く（60％台）、高得点者は非常に少ない（2.0～7.5％）という特徴をもつタイプである。

タイプ２にはＣ（回帰性傾向）、Ｎ（神経質）が属し、これは平均得点者（40～50％台）が低得点者よりやや多く、高得点者は非常に少ない（5.0～7.5％）タイプである。

タイプ３にはＯ（客観的でないこと）、Ag（愛想の悪いこと）が属し、低得点者（40％台）が平均得点者よりやや多く、高得点者が相当少ない（10％台）タイプである。

NII-Electronic Library Service

Otemae University

タイプ4にはI (劣等感の強いこと)、G (一般的活動性)、A (支配性) が属し、平均得点者がかなり多く (50～60%台)、高得点者が相当少ない (10%台) タイプである。

タイプ5にはCo (協調的でないこと) が属し、高得点者 (40%台) が平均得点者よりやや多く、低得点者がかなり多い (20%台) タイプである。

タイプ6にはR (のんきさ) が属し、平均得点者が半数以上 (50%台) で低得点者が相当少ない (8.5%) タイプである。

つぎに、個々の性格特性についてのべると、D (抑うつ性) では、低得点者 (楽天的で充実感をもつ) が122人 (61.3%) と相当多く、反対に陰気で悲観的な性質の持ち主 (高得点者) は4人 (2.0%) と非常に少ない。

C (回帰性傾向) では、約半数が情緒的に平均的 (中庸) な者 (平均得点者) であり、低得点者 (冷静で理性的) も87人 (43.7%) とかなり多く、高得点者 (感情的でお天気屋) は10人 (5.0%) と非常に少ない。

I (劣等感の強いこと) では、128人 (64.3%) とかなり多くが平均得点者であり、低得点者 (自信家) も51人 (25.6%) みられるが、自信欠如者 (高得点者) は20人 (10.1%) と相当少ない。

N (神経質) では、低得点者 (神経質でない) が91人 (45.7%) であり、平均得点者93人 (46.7%) との比率がほぼ同率を示しており、高得点者 (神経質) は15人 (7.5%) と非常に少ない。

O (客観的でないこと) では,低得点者 (客観的で常識的) が88人 (44.2%) であり、次いで平均得点者78人 (39.2%) となっている。高得点者 (主観的) は33人 (16.6%) と相当少ない。

Co (客観的でないこと) では、高得点者 (非協調的な警戒心、不満感の持ち主) が87人 (43.7%) と平均得点者70人 (35.2%) よりやや多く、低得点者 (協調的で現状肯定者) も42人 (21.1%) とかなり多い。

Ag (愛想の悪いこと) では、低得点者 (消極的) が92人 (46.2%)、次いで平均得点者87人 (43.7%) となる。高得点者 (積極的、攻撃的) は20人 (10.1%) で相当少ない。

G (一般的活動性) では、平均得点者が116人 (58.3%) と約半数を占め、次いで低得点者 (非活動的) が47人 (23.6%) となり、高得点者 (活発で快活) は36人 (18.1%) と相当少ない。

R (のんきさ) では、平均得点者が112人 (56.3%) であり、高得点者 (のんき) は70人 (35.2%) みられるが、低得点者 (慎重) は17人 (8.5%) と相当少ない。

T (思考的外向) では、135人 (67.8%) と相当多くが低得点者 (熟慮的) であり、平均得点者も49人 (24.6%) とやや多い。高得点者 (非熟慮的で無計画) は15人 (7.5%) と非常に少ない。

NII-Electronic Library Service

Otemae University

A（支配性）では、111人（55.8％）が平均得点者であり、高得点者（ソシアルリーダーシップあり）は23人（11.6％）と相当少なく、低得点者（服従的、追従的）が65人（32.7％）であることがわかる。

S（社会的外向）では、低得点者（地味な人柄）が139人（69.8％）を占め、高得点者（社交的）は９人（4.5％）と少ない。

本学学生の12の性格特性項目の得点分布を各性格特性の平均値と標準偏差から図示すれば図２のようになる。

いま、12の性格特性の各々の平均値をみれば、D.T.S では平均値は低得点側にあり、その他は平均得点内にある。

つまり、おおむね本学学生は楽天的で充実感を持ち、熟慮的で地味な人柄であり、その他の性格特性については中庸（平均的）であるといえる。

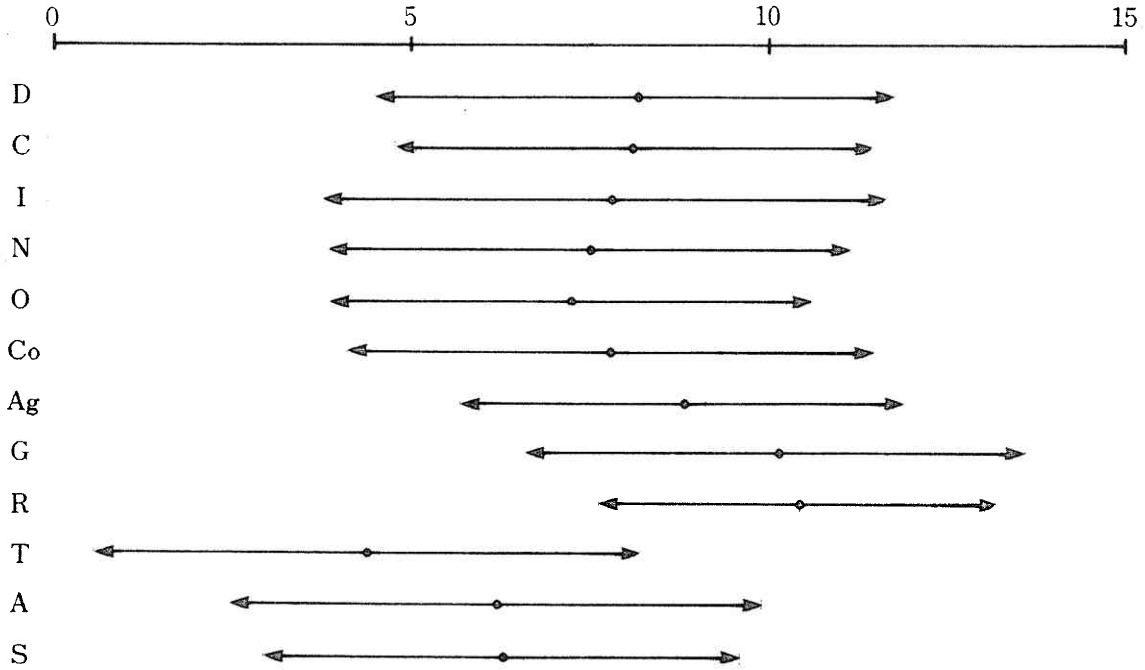

図２　ＹＧ性格特性の平均値と標準偏差（・は平均点）

３・３　被服に対する意識と行動とYG性格検査の12性格特性との被服行動調査の分割表分析

３・３・１　被服に対する意識と行動と被服行動調査との分割表分析

「あなたは男性の目を意識して服を着ていると思いますか。（Ａ項目）」の設問と「あなたは女性の目を意識して服を着ていますか。（Ｂ項目）」の設問間のクロス表をブロック図にあらわしたのが図３である。カイ２乗検定で両項目間に高い関連性が認められた。

NII-Electronic Library Service

Otemae University

男性の目を意識して服を着ている者は女性の目をも意識して着ており (57人 (29.1%))、A項目もB項目も「そう思わない」と回答した者46人 (23.5%) は男女を問わず意識していないという傾向が読みとれる。細かく見ると、男性の目を意識していないと回答した者86人 (43.9%) のうち、31.4% (27人) が女性の目を意識すると回答している。逆の回答した者は4人に過ぎない。この項目については意見が二分化されている。つまり男性の目を意識し、かつ同性の目を意識しているグループとその意見に対する否定的なグループが存在していることがわかる。一方、同性の目だけを意識しているグループにおいては仲間はずれになりたくないという同調意識からであろう。

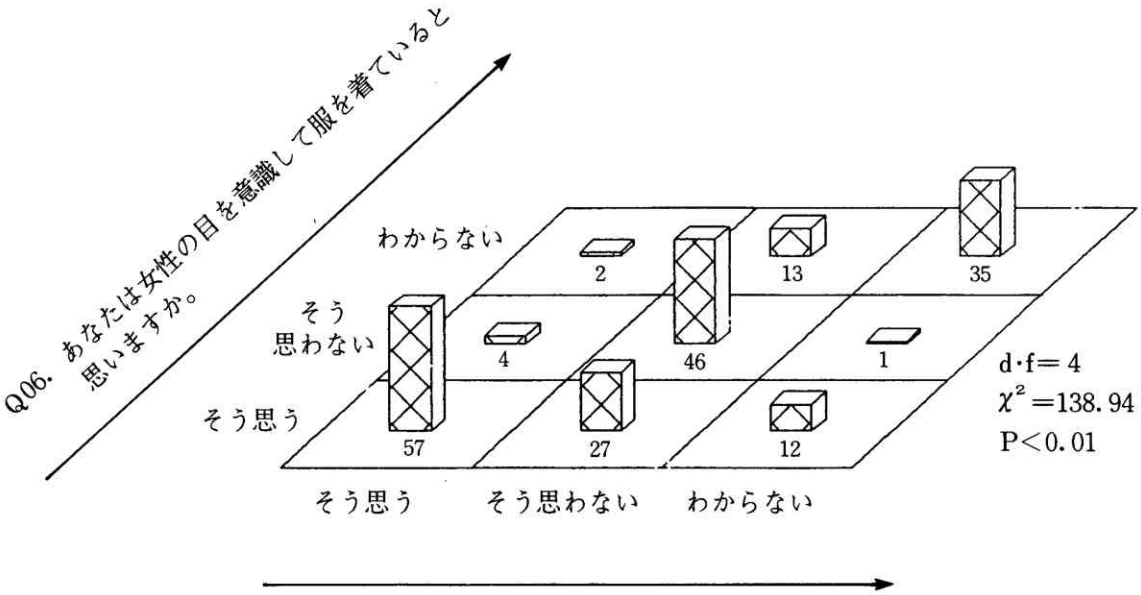

図3　Q05 あなたは男性の目を意識して服を着ていると思いますか。 × Q06 あなたは女性の目を意識して服を着ていると思いますか。

「あなたは今日はどんな服を着ようかと考えるのは楽しいですか。(A項目)」の設問と「あなたは着る服が無くて外出がいやになることがありますか。(B項目)」という項目間にはカイ2乗検定で高い関連性が認められた。両項目間のブロック図にあらわしたものを図4に示す。

B項目の「そう思う」と答えたものは全体の70.4% (138人) と多数を占め、関心の強さを示している。これは「人間は着る衣服によって外観ばかりでなく、気持ちも変わり、行動や態度にも表れる」[24] と指摘されているように外出時には素敵な自分でありたいと願う女性心理のあらわれといえよう。B項目もA項目も「そう思う」と答えた者は30.1% (59人)

NII-Electronic Library Service

Otemae University

であるが、B項目については「そう思う」と答え、A項目については「そう思わない」と答えたグループも全体の比率で28.1％（55人）を占める。つまり、被験者の対応はA項目よりB項目に強い関心と願望をもっている傾向があることがわかった。

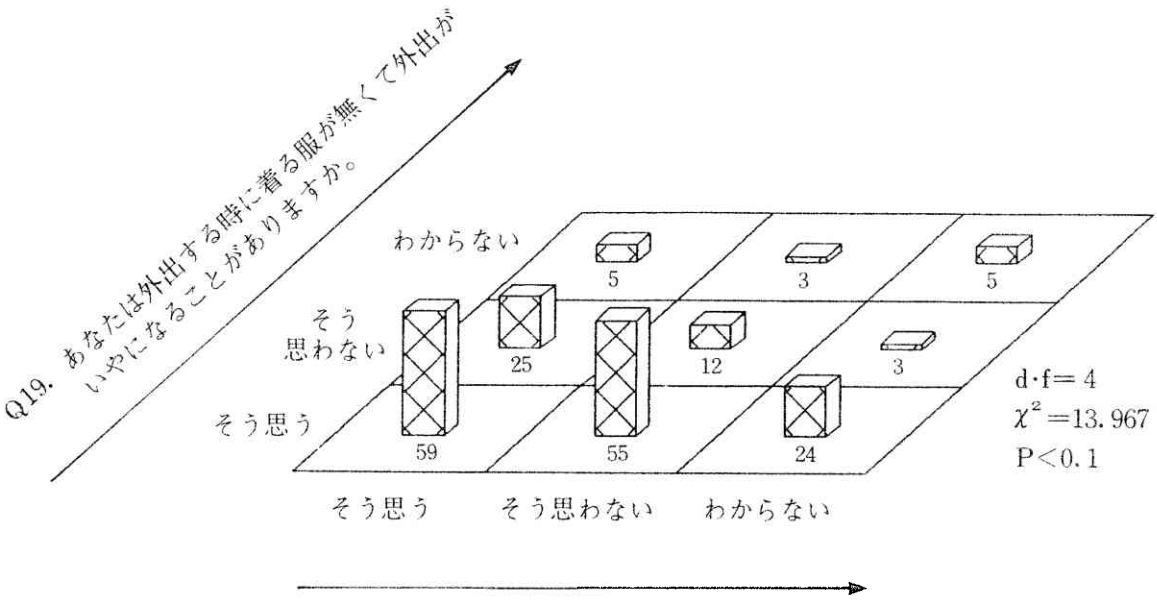

図4　Q18 あなたは今日どんな服を着ようかと考えるのは楽しいですか。 × Q19 あなたは外出する時に着る服が無くて外出がいやになることがありますか。

「あなたは服装によって美しく変身するのが楽しみですか」の設問と「あなたは有名ブランドの服を着てみたいと思いますか」という項目間にはカイ2乗検定で高い関連性が認められた。両項目間のブロック図にあらわしたものを図5に示す。

服装によって変身願望のある人がブランドの服を着てみたい119人（59.7％）の組合せで最も多く、一方、変身願望があるがブランドにはこだわらないと回答した者25人（12.8％）となっている。衣服と装身の心理学[25]によれば「有名ブランドの衣服の着用イメージについては美的に洗練されたグループの一員であるという優越感や自信の誇示である」（取意）とある。これらのことから推察すると、変身するには有名ブランドの服の着用によって簡単に変身が出来、自己満足が得られると考えていることがうかがえられる。一方、ブランド服でなくとも自分らしさで変身したいと思っている。年代にかかわらず変身願望は女性の永遠の願いであろう。

NII-Electronic Library Service

Otemae University

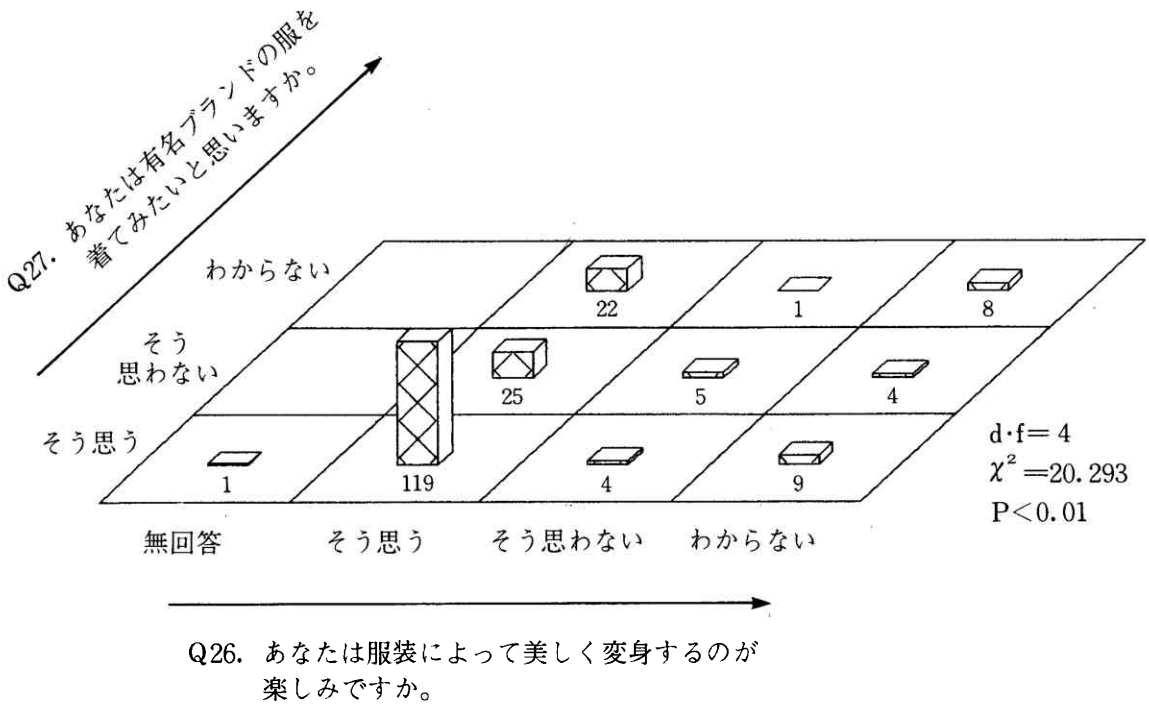

図5　あなたは服装によって美しく変身するのが楽しみですか。 × あなたは有名ブランドの服を着てみたいと思いますか。

「あなたは流行を追うつもりはないのに、いつの間にか流行に乗せられていることがありますか（A項目)」の設問と「服装によって美しく変身するのが楽しみですか（B項目)」の設問間のクロス表をブロック図にあらわしたのが図6である。カイ2乗検定では両項目間には高い関連性が認められた。

B項目の「そう思う」と答えた者は全体の83.7%（166人）と圧倒多数を占め、服装による変身願望が極めて強いことがわかる。その項目とA項目の「流行に乗せられる」者の組合せは54.6%（107人）であり、半数の者が知らず知らずに「乗せられた」と感じており、学生達の苦笑が見えるようである。マスメディアを駆使したメーカーの宣伝効果ともいえそうである。一方、変身願望は持ちながらも「流行には乗せられる」に「そう思わない」と回答をした者も18.9%（37人）おり、「わからない」と回答を保留した者も加えると、33.7%（66人）となり、変身願望を持ちながらも、服装についての流行についてはシビアな眼をもっている者がかなりの比率にのぼることは頼もしいといえよう。

NII-Electronic Library Service

Otemae University

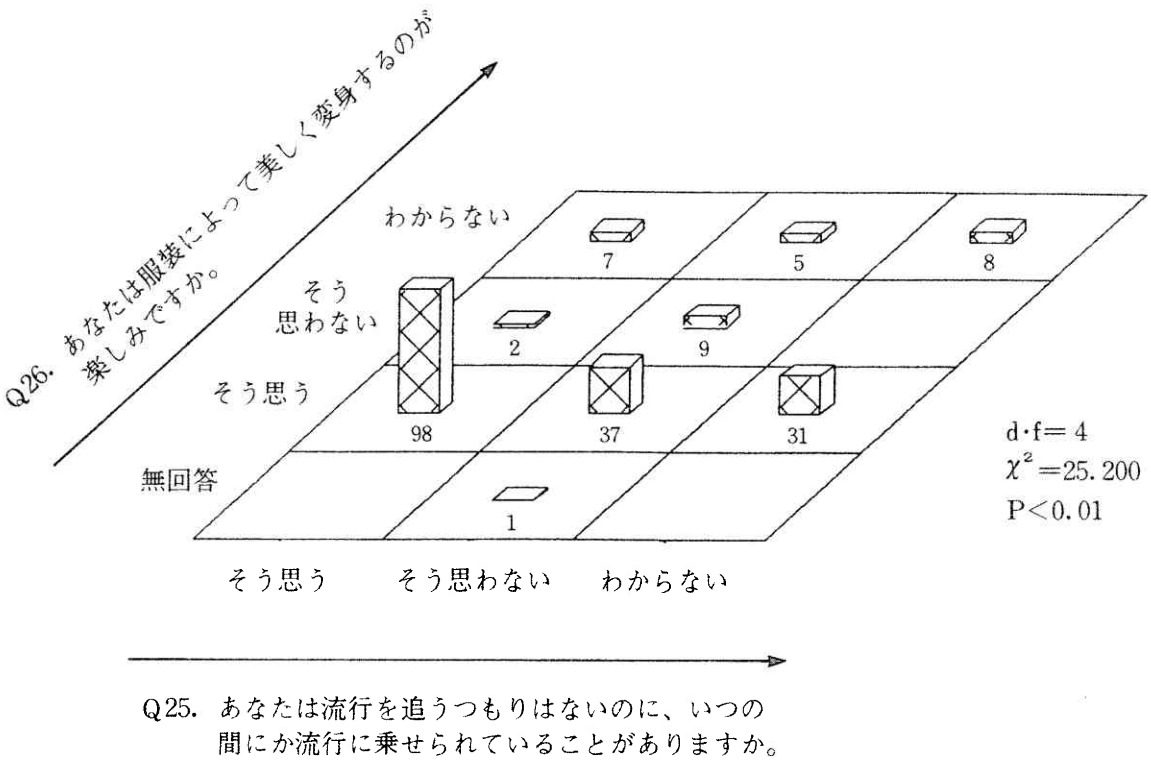

図6　Q25 あなたは流行を追うつもりはないのに、いつの間にか流行に乗せられていることがありますか。 × Q26 あなたは服装によって美しく変身するのが楽しみですか。

3・3・2　被服行動調査とYG性格検査の12性格特性との分割表分析

被服行動に対する38の質問項目とYG性格検査の12の性格特性との関連度をカイ2乗検定によって検討した結果を表12に示す。

この中で、両設問間に0.1％レベルの極めて高い有意差が認められるものについてのYG性格特性と被服行動との関連度は、表13の通りである。

なお、χ^2検定による分割表は紙幅の関係で掲載を割愛した。

この結果、YG性格特性と被服行動との関連性は次のようである。

D（抑うつ性）：1％レベルの有意差が認められるのは（Q05）と（Q25）の場合であり、これらの分割表より、・低得点者（楽天的）の122人中61人（50.0％）は男性の目を意識して服を着ていないが、42人（34.4％）は男性の目を意識している。・楽天的（122人）な69人（56.6％）がいつの間にか流行にのせられており、37人（30.3％）は流行にのせられていないなどが読みとれる。

5％レベルの有意差が認められるのは（Q20）、（Q23）、（Q29）の場合であり、各々の分割表より、・楽天的（122人）な64人（52.5％）と平均得点者の73人中42人（57.5％）は、はやりすたりのない服を選択している。・楽天的な67人（54.9％）が人の服装を批判しないが、44人（36.1％）は批判している。・兄弟・姉妹と服を買いに行く者の23人中14人（60.9％）は楽天的傾向の性格者である。

NII-Electronic Library Service

Otemae University

表12　YG性格検査の性格特性と被服行動に対する質問項目との関連

	項目 ＼ YGの特性	D 抑うつ性	C 回帰性傾向	I 強いこと劣等感の	N 神経質	O ないこと客観的で	Co ないこと協調的で	Ag 悪いこと愛想の	G 活動性一般的	R のんきさ	T 思考的外向	A 支配性	S 社会的外向
Q01.	あなたは上手に服を着こなしていると思いますか。			◎					◎				○
Q02.	人間は服装よりも自分自身が大切だから、着るものにこだわらないほうが良いと思いますか。				△	○							
Q03.	あなたは他人と同じような服装をするのが嫌いなので、個性的な服を着るほうが良いと思いますか。										○		◎
Q04.	あなたはＴＰＯに合わせて適切な服を選んでいると思いますか。				△				△				
Q05.	あなたは男性の目を意識して服を着ていると思いますか。	○	◎		○	△	△	△					○
Q06.	あなたは女性の目を意識して服を着ていると思いますか。		◎		○				○		△		△
Q07.	あなたは夏祭りには浴衣（ゆかた）を着たいと思いますか。				○						△		
Q08.	あなたは服を購入する場合、素材が天然繊維の服（綿・麻・絹・毛）を主に選んでいると思いますか。			○									
Q09.	あなたは自分の服に対して他人がどう思っているかを気にする方ですか。			○					△	△			
Q10.	あなたは服装は自己表現の有力な手段であると思いますか。						△					△	△
Q11.	あなたは正月には着物を着たいと思いますか。									△	△		
Q12.	あなたはどちらかというと目立たない地味な服装が好きですか。			△	△							△	
Q13.	あなたは周囲の人たちと同じような服装をしている方が気持ちが落ち着くように思いますか。			○					△	◎		○	△
Q14.	あなたは少し高価でもデザインと品質のよいものを選んでいると思いますか。		○		◎	△	○		△				○
Q15.	あなたは最近、母・姉や自分の服を仕立直し（リフォーム）して着ることがありますか。		○			◎		◎	◎				○
Q16.	あなたは服の枚数は比較的少なくても上手に組合わせて変化をつけたいと思いますか。							△					
Q17.	あなたは流行の先端の服を着るのは恥ずかしいですか。			○	△						△		
Q18.	あなたは今日どんな服を着ようかと考えるのは楽しいですか。							△					
Q19.	あなたは外出するときに着る服が無くて外出がいやになることがありますか。						△		◎				△
Q20.	あなたは流行に流されるのが嫌いではやりすたりのない服を選ぶほうですか。	△	△		◎				○	○			

NII-Electronic Library Service

Otemae University

表12　YG性格検査の性格特性と被服行動に対する質問項目との関連

	項目 ＼ YGの特性	D 抑うつ性	C 回帰性傾向	I 強いこと劣等感の	N 神経質	O ないこと客観的で	Co ないこと協調的で	Ag 無いこと愛想の	G 活動性一般的	R のんきさ	T 思考的外向	A 支配性	S 社会的外向
Q21.	あなたは新しい服を買うときには気に入ったらすぐに買いますか。			○					◎			△	
Q22.	あなたは安くてもよいから数多くの服を持ちたいと思いますか。												△
Q23.	あなたは人の服を見ていろいろと批判する方ですか。	△		△	◎	○	○	△	○	◎		△	
Q24.	あなたは自分で服を作ることがありますか。		○			○							
Q25.	あなたは流行を追うつもりはないのに、いつの間にか流行に乗せられていることがありますか。	○		○		○	○		○	○	○		○
Q26.	あなたは服装によって美しく変身するのが楽しみですか。								○	△		△	
Q27.	あなたは有名ブランドの服を着てみたいと思いますか。			△			△						
Q28.	有名ブランドの服を着てみたいと答えた人		△										
Q29.	あなたは服を買う時はおもに誰と買いに行きますか	△		△		△							
Q30.	あなたは成人式にはどのような服を着たいと思いますか。											○	
Q31.	あなたは卒業式にはどのような服を着たいと思いますか。												
Q32.	あなたは花嫁衣装にはどれを着たいと思いますか。												
Q33.	あなたはジーンズをはくのが好きですか。												
Q34.	ジーンズをはくのが好きだと答えた人は理由を書いて下さい。									△			
Q35.	あなたが好きな髪型												
Q36.	あなたの好きな色						△						△
Q37.	あなたが着てみたいと思う振袖												
Q38.	振袖を選んだ理由												

χ^2検定の有意水準　◎：P ＜ 0.001　○：0.001 ＜ P ≦ 0.01　△：P ＜ 0.05　ノーマークは *No Significance*

NII-Electronic Library Service

Otemae University

表13　ＹＧ性格特性と被服行動の関係

被験者数＝199人

ＹＧ性格特性	被服行動項目	自由度	カイ２乗値	クレマーＶ係数	φ係数	関連係数
C　回帰性傾向	男性の目を意識して服の着用	4	33.47	0.29	0.41	0.38
C　回帰性傾向	女性の目を意識して服の着用	4	20.67	0.23	0.32	0.31
I　劣等感の強いこと	服の着こなし	4	21.12	0.23	0.33	0.31
N　神経質	高価なデザインと品質を選択	4	20.42	0.23	0.32	0.31
N　神経質	流行の服を選択	4	24.50	0.25	0.35	0.33
N　神経質	服装を見て色々と批判する	4	24.30	0.25	0.35	0.33
O　客観的でないこと	リフォーム服の着用	4	19.08	0.22	0.31	0.30
Ag 愛想の悪いこと	リフォーム服の着用	4	26.32	0.26	0.36	0.34
G　一般的活動性	服の着こなし	4	19.85	0.22	0.32	0.30
G　一般的活動性	リフォーム服の着用	4	18.12	0.21	0.30	0.29
G　一般的活動性	着る服が無くて外出がいやになる	4	18.00	0.21	0.30	0.29
G　一般的活動性	気にいったらすぐに服の購入	4	18.43	0.22	0.30	0.29
R　のんきさ	周囲の人達と同じような服装の着用	4	18.40	0.22	0.30	0.29
R　のんきさ	服装を見て色々と批判する	4	18.39	0.22	0.30	0.29
S　社会的外向	他人と同じような服装を着ないで個性的な服の着用	4	19.35	0.22	030	0.29

注）組合せが膨大になるのでカイ２乗検定において0.1以下の有意義があらわれた項目間のみを抽出して作成した。

C（回帰性傾向）：0.1 %レベルの極めて高い有意差が認められるのは、(Q05) と (Q06) の場合であり、(Q05) では、対応する分割表より、低得点者（冷静、理性的）87人中50人 (57.5%) と平均得点者102人中38人 (37.3%) が男性の目を意識して服を着ていないが、平均得点者の37人 (36.3%) は男性の目を意識していることがわかる。(Q06) の対応する分割表より、低得点者（冷静・理性的）87人中44人 (50.6%) と平均得点者102人中49人 (48.0%) は女性の目を意識して服を着ているが、冷静な31人 (35.6%) では女性の目を意識していないといえる。

１%レベルでは、(Q14)、(Q15)、(Q24) に有意差が認められ、・冷静な87人中52人 (59.8%) はデザインと品質のよいものを選んでいるが、22人 (25.3%) は選んでいない。この傾向は平均得点者と高得点者（感情的）にもみられる。・平均得点者の83人 (81.4%) と冷静な70人 (80.5%) はリフォームしないが、冷静な15人 (17.2%) と平均的な15人 (14.7%) はリフォームしている。・平均的な82人 (80.4%) と冷静な71人 (81.6%) は自分で服を作ることがない。

５%レベルでは、(Q20) と (Q28) に有意差があり、・平均的な55人 (53.9%) と冷静な49人 (56.3%) がはやりすたりのない服を選ぶ方である。・有名ブランドの服を着てみ

NII-Electronic Library Service

Otemae University

たいと思う49人中26人（53.1％）は平均得点者であり、21人（42.9％）は低得点者（冷静、理性的）である。

I（劣等感の強いこと）：0.1 ％レベルの非常に高い有意差のあるものは（Q01）の場合であり、平均得点者128人中53人（41.4％）は上手に服を着こなしているとは思っていないが、低得点者（自信家）51人中17人（33.3％）が上手に服を着こなしていると思っており、17人は思っていない。

1％レベルでは、(Q08)、(Q09)、(Q13)、(Q17)、(Q21)、(Q25) に有意差がみられ、・天然繊維の服を主に選んでいないのは平均得点者（128人）の48人（37.5％）、自信家（51人）の31人（60.8％）と自信欠如者（20人）の11人（55.0％）である。・自分の服装を他人がどう思っているかを気にしているのは平均得点者の78人（60.9％）、自信家の26人（51.0％）と自信欠如者の14人（70.0％）である。・周囲の人達と同じような服装をしている方が気持ちが落ちつくように思うのは、平均得点者の45人（35.2％）であるが、43人（33.6％）は反対に思わないし、自信家の32人（62.8％）や自信欠如者の9人（45.0％）も同様に思っていない。・流行の先端の服を着るのが恥ずかしくない者は平均得点者の67人（52.3％）、自信家の35人（68.6％）、自信欠如者の7人（35.0％）である。・新しい服をすぐに買うのは平均得点者の65人（50.8％）、自信家の35人（68.6％）、自信欠如者の7人（35.0％）である。・いつの間にか流行にのせられていることがあるのは平均得点者の74人（57.8％）、自信家の23人（45.1％）、自信欠如者の10人（50.0％）である。

5％レベルでは、(Q12)、(Q23)、(Q27)、(Q29) に有意差が認められ、・目立たない地味な服装が好きではないのは平均得点者の66人（51.6％）、自信家の36人（70.6％）、自信欠如者の7人（35.0％）である。・人の服装を批判しないのは平均得点者の63人（49.2％）、自信家の22人（43.1％）、自信欠如者の9人（45.0％）である。・有名ブランドの服を着てみたいと思うのは平均得点者の87人（68.0％）、自信家の32人（62.8％）、自信欠如者の14人（70.0％）である。・服を買う時に主に兄弟・姉妹と行く23人中21人（91.3％）は平均得点者であり、自信家は2人（8.7 ％）、自信欠如者にはいなかった。

N（神経質）：0.1％レベルの非常に高い有意差が認められるのは（Q14）、(Q20)、(Q23) に対してであり、(Q14) より、デザインと品質のよいものを選んでいるのは、神経質でない者91人中54人（59.3％）、平均得点者93人中38人（40.9％）、神経質な者15人中4人（26.7％）である。（Q20）より、はやりすたりのない服を選ぶのは平均得点者の57人（61.3％）、神経質でない46人（50.6％）、神経質な5人（33.3％）である。（Q23）より、人の服装をみて批判しないのは神経質でない48人（52.8％）、平均得点者の42人（45.2％）、神経質な4人（26.7％）であるが、平均得点者の43人（46.2％）は批判する方である。

1％レベルでは、(Q05)、(Q06)、(Q07) に有意差があり、・男性の目を意識して服を着ていないのは神経質でない52人（57.1％）、平均得点者の28人（30.1％）、神経質な8人

NII-Electronic Library Service

Otemae University

(53.3%) である。・女性の目を意識して服を着ているのは平均得点者の50人 (53.8%)、神経質でない41人 (45.1%)、神経質な5人 (33.3%) である。・夏祭には浴衣を着たいと思うのは平均得点者の89人 (95.7%)、神経質でない76人 (83.5%)、神経質な10人 (66.7%) である。

5%レベルでは、(Q02)、(Q04)、(Q12)、(Q17) に有意差があり、・着るものにこだわらない方がよいと思わないのは平均得点者の68人 (73.1%)、神経質でない67人 (73.6%)、神経質な5人 (33.3%) である。・T.P.O.に合わせて適切な服を選んでいるのは神経質でない62人 (68.1%)、平均得点者の58人 (62.4%)、神経質な6人 (40.0%) である。・目立たない地味な服装が好きではないのは神経質でない59人 (64.8%)、平均得点者の44人 (47.3%)、神経質な6人 (40.0%) である。・流行の先端の服を着るのが恥ずかしくないのは、神経質でない60人 (65.9%)、平均得点者の41人 (44.1%)、神経質な8人 (53.3%) である。

O (客観的でないこと) : 0.1%レベルの非常に高い有意差が (Q15) に認められ、リフォームしないのは客観的な常識人88人中74人 (84.1%)、平均得点者78人中66人 (84.6%) と主観的な理想主義者33人中19人 (57.6%) である。

1%レベルの有意差が (Q02)、(Q23)、(Q24)、(Q25) に認められ、・着るものにこだわるのは客観的な70人 (79.6%)、平均的な54人 (69.2%)、主観的な16人 (48.5%) である。・人の服装を批判しないのは客観的な52人 (59.1%)、平均的な35人 (44.9%)、主観的な7人 (21.2%) である。・自分で服を作らないのは客観な70人 (79.6%)、平均的な63人 (80.8%)、主観的な24人 (72.7%) となる。・いつの間にか流行にのせられているのは客観的な53人 (60.2%)、平均的な41人 (52.6%)、主観的な13人 (39.4%) である。

5%レベルの有意差は、(Q05)、(Q14)、(Q28) に認められ、・男性の目を意識して服を着ていないと思うのは、客観的な43人 (48.9%) であり、反対に意識しているのは30人 (34.1%) であるが、この傾向は平均得点者にもみられる。・デザインと品質のよいものを選んでいるのは客観的な52人 (59.1%)、平均的な30人 (38.5%)、主観的な14人 (42.4%) である。・服を買う時に主に母と行く86人中44人 (51.2%) は客観的な者であり、35人 (40.7%) は平均得点者、7人 (8.1%) が主観的な者である。

Co (協調的でないこと) : 1%レベルの有意差は、(Q14)、(Q23)、(Q25) に認められ、・デザインと品質のよいものを選ぶのは非協調的な者87人中36人 (41.4%)、平均得点者70人中31人 (44.3%)、協調的な者42人中29人 (69.1%) である。・人の服装を批判しないのは非協調的な37人 (42.5%)、平均的な29人 (41.4%)、協調的な28人 (66.7%) である。・流行にのせられているのは非協調的な41人 (47.1%)、平均的な39人 (55.7%)、協調的な27人 (64.3%) である。

5%レベルの有意差は、(Q05)、(Q10)、(Q19)、(Q27)、(Q36) にあり、・男性の目を

NII-Electronic Library Service

Otemae University

意識して服を着ないのは非協調的な37人（42.5％）、平均的な29人（41.4％）、協調的な22人（52.4％）であるが、平均的な31人（44.3％）は男性の目を意識して服を着る。・服装は自己表現の有力な手段であると思うのは、平均的な57人（81.4％）、非協調的な56人（64.4％）、協調的な28人（66.7％）である。・着るものがなくて外出がいやになることがあるのは、非協調的な67人（77.0％）、平均的な48人（68.6％）、協調的な25人（59.5％）である。・有名ブランドの服を着てみたいと思うのは、非協調的な60人（69.0％）、平均的な51人（72.9％）、協調的な22人（52.4％）である。・ブルーを好きな色に選んだのは、非協調的な86人中28人（32.6％）、平均的な69人中20人（29.0％）、協調的な13人（31.7％）である。

Ag（愛想の悪いこと）：0.1％レベルの非常に高い有意差が（Q15）に認められ、リフォームしないのは消極的で温順な低得点者92人中80人（87.0％）、平均得点者87人中69人（79.3％）、高得点者（積極的、攻撃的）20人中10人（50.0％）である。

5％レベルの有意差は、（Q05）、（Q16）、（Q18）、（Q23）に認められ、・男性の目を意識して服を着ていると思わないのは消極的な47人（51.1％）、平均的な32人（36.8％）、積極的な9人（45.0％）であるが、平均得点者では男性の目を意識している方が34人（39.1％）とやや多い。・服を上手に組合せて変化をつけているのは消極的な83人（90.2％）、平均的な80人（92.0％）、積極的な15人（85.0％）と大部分である。・今日はどんな服を着ようかと考えるのが楽しいのは消極的な43人（46.7％）、平均的な42人（48.3％）、積極的な8人（40.0％）である。・人の服装を批判しないのは消極的な52人（56.5％）、平均的な37人（42.5％）であるが、平均的な36人（41.4％）と積極的な9人（45.0％）は批判している。

G（一般的活動性）：0.1％レベルの非常に高い有意差が（Q01）、（015）、（Q19）、（Q21）に認められ、（Q01）より、上手に服を着こなしていると思わないのは平均得点者116人中40人（34.5％）、非活動的な者47人中30人（63.8％）、活動的な36人中8人（22.2％）である。また、わからない者も活動的な24人（66.7％）、平均的な55人（47.4％）、非活動的な13人（27.7％）と相当多い。（Q15）より、リフォームしないのは平均得点者の98人（84.5％）、非活動的な36人（76.6％）、活動的な25人（69.4％）の順となる。（Q19）より、外出時に着るものがなくて外出がいやになるのは平均的な78人（67.2％）、非活動的な38人（80.4％）、活動的な24人（66.7％）と相当多い。（Q21）より、新しい服を気にいったらすぐに買うのは平均的な68人（58.6％）、非活動的な22人（46.8％）、活動的な17人（47.2％）であるが、すぐに買わないのは非活動的な23人（48.9％）が多い。

1％レベルの有意差が、（Q06）、（Q20）、（Q23）、（Q25）、（Q26）にあり、・女性の目を意識して服を着るのは平均的な64人（55.2％）、非活動的な20人（42.6％）、活動的な12人（33.3％）であるが、非活動的な19人（40.4％）は女性の目を意識していない。・はやりす

NII-Electronic Library Service

Otemae University

たりのない服を選ぶのは平均的な65人 (56.0%)、非活動的な29人 (61.7%)、活動的な14人 (38.9%) とかなり多いが、非活動的な13人 (27.7%) ははやりすたりのない服を選ばない。・人の服装をみて批判しないのは平均的な49人 (42.2%)、非活動的な26人 (55.3%)、活動的な19人 (52.8%) と相当多いが、反対に批判するのは平均的な52人 (44.8%) や非活動的な19人 (40.3%) が多い。・流行にのせられるのは平均的な65人 (56.0%)、非活動的な26人 (55.3%)、活動的な16人 (44.4%) である。・服装によって美しく変身するのが楽しみなのは平均的な103人 (88.8%)、非活動的な35人 (74.5%)、活動的な28人 (77.8%) と相当多い。

5%レベルの有意差は、(Q04)、(Q09)、(Q13)、(Q14) にあり、・T.P.O.に合わせて適切な服を選んでいるのは平均的な77人 (66.4%)、活動的な25人 (69.4%)、非活動的な24人 (51.1%) の順である。・自分の服装を他人がどう思っているかを気にするのは平均的な71人 (61.2%)、非活動的な26人 (55.3%)、活動的な21人 (58.3%) の順となっている。・周囲の人達と同じような服装をしている方が気持ちが落ちつくように思わないのは平均的な48人 (41.4%)、非活動的な21人 (44.7%)、活動的な15人 (41.7%) であるが、反対意見としては非活動的な20人 (42.6%) が多い。・デザインと品質のよいものを選んでいるのは平均的な57人 (49.1%) 、非活動的な23人 (48.9%)、活動的な16人 (44.4%) であるが、非活動的な16人 (34.0%) は反対意見である。

R (のんきさ) : 0.1%レベルの非常に高い有意差が (Q13) と (Q23) に認められ、(Q13) より、周囲の人達と同じような服装をしている方が気持ちが落ちつくように思わないのは平均得点者の112人中56人 (50.0%)、慎重な17人中9人 (52.9%) と多いが、反対に思う人も慎重な7人 (41.2%)、平均的な31人 (27.7%) に多く、のんきな人 (70人) は賛否それぞれ19人 (27.1%) ずつとなっている。(Q23) より、人の服装を批判しないのは平均的な54人 (48.2%)、のんきな26人 (37.1%)、慎重な14人 (82.4%) であるが、反対に批判するのは平均的な48人 (42.9%)、のんきな27人 (38.6%) と相当多い。

1%レベルの有意差は、(Q20) と (Q25) にあり、・はやりすたりのない服を選ぶのは、平均的な66人 (58.9%)、のんきな28人 (40.0%)、慎重な14人 (82.4%) と多い。・いつの間にか流行にのせられるのは平均的な59人 (52.7%)、のんきな41人 (58.6%)、慎重な7人 (41.2%) であるが、反対意見は平均的な37人 (33.0%) や慎重な7人 (41.2%) にも多い。

5%レベルの有意差は、(Q09)、(Q11)、(Q26)、(Q34) にあり、・自分の服装に対して他人がどう思っているかを気にするのは平均的な67人 (59.8%)、のんきな41人 (58.6%)、慎重な10人 (58.8%) と半数以上である。・正月に着物を着たいと思うのは平均的な90人 (80.4%) とのんきな52人 (74.3%) に多いが、慎重な者では賛否7人 (41.2%) ずつに分かれる。・服装によって美しく変身するのが楽しみであるのは平均的な93人 (83.0

NII-Electronic Library Service

Otemae University

%)、のんきな61人（87.1%)、慎重な12人（70.6%）と多い。・ジーンズをはくのが好きな理由として、「上着の組合せが簡単であるから」をあげたのが88人（44.2%）で一番多く、平均得点者では48人（42.9%)、高得点者（のんき）では37人（52.9%)、低得点者（慎重）では３人（17.7%）であることがわかった。

T（思考的外向)：１%レベルの有意差が（Q03）と（Q25）に認められ、・個性的な服を着る方がよいと思うのは熟慮的な135人中65人（48.2%）であるが、39人（28.9%）は反対意見である。非熟慮的な者は反対意見の方がやや多い（15人中５人；33.3%)。・いつの間にか流行にのせられているのは熟慮的な77人（57.0%)、平均得点者49人中23人（46.9%)、非熟慮的な15人中７人（46.7%）であるが、反対意見は熟慮的な39人（28.9%）がかなり多い。

５%レベルの有意差は、(Q06)、(Q07)、(Q11)、(Q17）にあり、・女性の目を意識して服を着ているのは熟慮的な70人（51.9%)、平均的な17人（34.7%)、非熟慮的な９人（60.0%）であるが、反対意見も熟慮的な38人（28.2%）と平均的な14人（28.6%）に多い。・夏祭に浴衣を着たいと思うのは熟慮的な121人（89.6%)、平均的な44人（89.8%)、非熟慮的な10人（66.7%）と多く、浴衣志向である。・正月に着物を着たいと思うのは熟慮的な105人（77.8%）と平均的な37人（75.5%）に多く、７人（46.7%）は非熟慮的な者であり、浴衣の場合と同傾向といえよう。・流行の先端の服を着るのが恥ずかしくないのは熟慮的な81人（60.0%)、平均的な19人（38.8%)、非熟慮的な９人（60.0%）である。非熟慮的な者には反対意見はみられない。

A（支配性)：１%レベルの有意差が（Q13）と（Q30）に認められ、・周囲の人達と同じ服装をしている方が気持ちが落ちつくように思わないのは平均得点者111人中50人（45.1%)、低得点者（従順）65人中26人（40.0%)、高得点者（支配性大）23人中８人（34.8%）であるが、反対に気持ちが落ちつくように思うのは従順な28人（43.1%）が多い。・成人式に袴をはきたいのが181人（91.0%）で一番多く、平均得点者では101人（91.0%)、低得点者（従順）では62人（95.4%)、高得点者では18人（78.3%）と多くが袴を希望している。

５%レベルでは、(Q10)、(Q12)、(Q21)、(Q23)、(Q26）に有意差があり、・服装は自己表現の有力な手段であると思うのは平均的な87人（78.4%)、従順な41人（63.1%)、支配性大の13人（56.5%）である。反対意見は支配性大の５人（21.7%）が他よりやや多い。・目立たない地味な服装を好まないのは平均的な62人（55.9%)、従順な38人（58.5%）と半数以上であるが、反対に好むのは支配性大の11人（47.8%）が他より多い。・新しい服をすぐに買うのは平均的な57人（51.4%)、従順な38人（58.5%)、支配性大の12人（52.2%）である。・人の服装を批判しないのは平均的な50人（45.1%)、従順な36人（55.4%)、支配性大の８人（34.8%）であり、反対に批判するのは平均的な47人（42.3%）が他

NII-Electronic Library Service

Otemae University

より多い。・服装によって美しく変身するのが楽しみであるのは平均的な97人 (87.4%)、従順な53人 (81.5%)、支配性大の16人 (69.6%) と相当多い。

S (社会的外向) : 0.1%レベルの非常に高い有意差が (Q03) に認められ、低得点者 (地味な人柄) 139人中67人 (48.2%)、平均得点者51人中13人 (25.5%)、高得点者 (社交的) 9人中1人 (11.1%) が個性的な服を着る方がよいと思っている。反対意見は地味な人柄の38人 (27.3%) と平均的な16人 (31.4%) が多い。

1%レベルの有意差は、(Q01)、(Q05)、(Q14)、(Q15)、(Q25) にあり、・地味な人柄の58人 (41.7%)、平均的な15人 (29.4%)、社交的な5人 (55.6%) は上手に服を着こなしているとは思っていない。・男性の目を意識して服を着ていると思わないのは地味な人柄の65人 (46.8%)、平均的な21人 (41.2%)、社交的な2人 (22.2%) である。反対に男性の目を意識しているのは地味な人柄の51人 (36.7%) が他よりかなり多い。・デザインと品質のよいものを選んでいるのは地味な人柄の72人 (51.8%)、平均的な21人 (41.2%)、社交的な3人 (33.3%) となっている。・リフォームしないのは地味な人柄の109人 (78.4%)、平均的な46人 (90.2%)、社交的な4人 (44.4%) である。・いつの間にか流行にのせられているのは地味な人柄の83人 (59.7%)、平均的な19人 (37.3%)、社交的な5人 (55.6%) である。

5%レベルでの有意差は、(Q06)、(Q10)、(Q13)、(Q19)、(Q22)、(Q36) に認められ、・女性の目を意識して服を着ているのは地味な人柄の76人 (54.7%)、平均的な18人 (35.3%)、社交的な2人 (22.2%) であり、反対意見も地味な人柄の35人 (25.2%)、平均的な16人 (31.4%) とかなり多い。・服装は自己表現の有力な手段であると思っているのは地味な人柄の106人 (76.3%)、平均的な30人 (58.8%)、社交的な5人 (55.6%) と多い。・周囲の人達と同じような服装をしている方が気持ちが落ちつくように思わないのは、地味な人柄の64人 (46.0%) で他より多いが、44人 (31.7%) は反対意見で、これも他より高い比率を示している。・地味な人柄の97人 (69.8%)、平均的な36人 (70.6%)、社交的な7人 (77.8%) と相当多くが外出する時に着る服がなくて外出がいやになることがあると回答している。・安くてもよいから数多くの服を持ちたいと思わないのは、地味な人柄の75人 (54.0%)、平均的な23人 (45.1%)、社交的な6人 (66.7%) である。反対意見は地味な人柄の43人 (30.9%) が他より多い。・ブルーを好きな色に選んでいるのは61人 (31.0%) で一番多いが、低得点者 (地味な人柄) 136人中39人 (28.7%)、平均得点者51人中20人 (39.2%)、高得点者 (社交的) 9人中2人 (22.2%) が選んでいる。

以上のように、被服行動と性格特性との間には深い関連性が認められた。

特に、顕著な傾向が現れたものは次のようである。

0.1%レベルでは、

・慎重な者は人の服装を批判しない。

NII-Electronic Library Service

Otemae University

・客観的、消極的および非活動的な者はリフォームしない。
・非活動的な者は外出時に着る服が無いと外出がいやになる。
　１％レベルでは、
・服従的な者や支配性大の者は、成人式には袴を着用したい。
・神経質でない者は夏祭には浴衣を着たい。
・慎重な者は、流行に流されるのが嫌いで、はやりすたりのない服を選ぶ。
・客観的な者は着るものにこだわる。
・非活動的な者は、服装によって美しく変身するのを楽しみにする。
・冷静な者や地味な人柄の者はリフォームしない。
　５％レベルでは、
・熟慮的な者は夏祭には浴衣を着たい。
・熟慮的な者やのんきな者は、お正月に着物を着たい。
・のんきな者や服従的な者は、服装によって美しく変身するのを楽しみにする。
・消極的な者は上手に服を組み合わせて変化をつける。
・神経質でない者は着るものにこだわる。
・自信家は目立たない地味な服装を好まない。
・地味な人柄の者は、服装は自己表現の有力な手段であると思う。
・非協調的な者や社交的な者は、外出時に着る服が無いと外出がいやになる。

３・４　主成分分析の計算手法

主成分分析法（*Principal Component Analysis*）は相関のある多数のデータを主要な変動に要約（情報縮約）する多変量解析法の１手法である。

次のように、多数の変数値を少数の主成分に集約するモデルを仮定する。

$$y_{rk} = \sum_{i=1}^{m} l_{ir} x_{ik}$$

ここに　y_{rk}：ケースkのr番目の主成分値
　　l_{ir}：主成分算出係数
　　x_{ik}：ケースkの変数iの値
　　m　：主成分モデルに含まれる変数の数
　　p　：主成分の数
　　n　：データ数である。

主成分分析法においては共分散行列から計算する方法と相関行列から計算する方法があるが本稿では相関行列から算出した値を用いた。

相関行列Ｒは次式により求める。

NII-Electronic Library Service

Otemae University

$$\mathbf{R} = \{ r_{ij} \} \qquad i,j = 1, 2, \cdots, m$$

$$r_{ij} = c_{ij} / (\sigma_i \sigma_j)$$

ここに $c_{ij} = \{ \sum_{k=1}^{n} w_k (x_{ik} - \overline{x}_i) (x_{ij} - \overline{x}_j) \} / (n - 1)$

であり $\sigma_i \sigma_j$ は標準偏差値、w_k はケースkのウエイト変数値、x_{ik} はケースkの変数iの値、x_{jk} はケースkの変数jの値であり、x_i, x_j は変数i,jの平均値を示す。

次に相関行列の固有値λ, 固有ベクトルVを計算する。固有値は大きい順に正の固有値のみが算出される。

$$\lambda_1 \geqq \lambda_2 \geqq \cdots\cdots \geqq \lambda m' > 0.0$$

m' は正の値をとる固有値の個数である。固有ベクトルは各固有値に対応して求められる。なお固有ベクトルは内積が1になるように標準化されている。

$$| Vr | = 1$$

各固有値、固有ベクトルは各主成分に対応しており各主成分の寄与率PCr 、累積寄与率CPCrは次式で求められる。

$$PCr = \{ \lambda r / \sum_{i=1}^{m'} \lambda i \} \times 100.0$$

$$CPCr = \{ \sum_{i=1}^{r} / \sum_{i=1}^{m'} \lambda i \} \times 100.0$$

$r = 1, 2, \cdots, m$である。

次に因子パターン (*factor pattern*) Fは因子負荷量 (*factor loading*) fir を要素とする行列である。因子負荷量はもとの変数 x_i と主成分 y_r 間の相関である。

$$F = (f_1, f_2, \cdots, f_p)$$

$$fr = (f1r, f2r, \cdots, fmr)^t$$

相関行列を出発点とした場合にはfirは $fir = \sqrt{\lambda_r Vir}$ で計算される。

ただし、$i = 1, 2, \cdots, m, r = 1, 2, \cdots, p$であり λ_r は固有相、Vir は固有ベクトルVrの要素である。

さらに因子寄与Vpは

$Vp_r = \sum_{i=1}^{m} f_i^2$ で計算される。

次に主成分値を算出するための係数行列Wを求める。各主成分値の分散を固有値にするような係数行列は固有ベクトルを列ベクトルとする行列としてあらわされ、

$$W = \{V_1, V_2, \cdots, V_p\}$$ である。

各主成分値の分散を1に標準化するための係数行列は各固有ベクトルを固有値の平方根で除したものと表現される。つまり、

NII-Electronic Library Service

Otemae University

$$W = \{ (1/\sqrt{\lambda_1})V_1, (1/\sqrt{\lambda_2})V_2, \cdots, (1/\sqrt{\lambda_p})V_p \}$$

である。

最後に算出された各主成分のケース得点 y_{rk} は

$$y_{rk} = \sum_{i=1}^{m} w_{ir} (x_{ik} - \bar{x}_i) \sigma_i$$ で計算される。

3・5　主成分分析によるYG特性の評価と分析

3・5・1　相関分析の結果と考察

YG性格テストで抽出される12の性格特性間の相関係数行列を表14に示す。

表27より、例えばDやSについては次のようにいえる。

D（抑うつ性）：情緒的安定の要因であるC，I，Nとの間に0.51、0.50、0.54という正の相関が認められるほか、社会的適応要因であるO，Coにも0.5の正相関が認められる。その他の要因との相関は0.2 ～0.4でいずれも弱い正相関が認められる。

S（社会的内向）：SはA（服従的）とともにYG性格テストでは主導・非主導的要因であるが、Aとの相関が0.56と最も高い。次いでG，Rの0.45、0.42、Iとの0.41があげられる。

このようにYGの12特性間の相関を見てみると相関の高低はあるものの、すべての特性間において負の相関の組合せが見られないことと、YGテストにおいては12特性のプロフィールを6要因（たとえばD, C, I, Nは情緒的安定・不安定）のように分類されているが、この要因に属する特性間及び隣接して設定された要因の特性間で比較的相関関係が強いということが判った。

表14　YG12特性間の相関係数行列

YG	D 抑うつ性	C 回帰性傾向	I 劣等感の強いこと	N 神経質	O 客観的でないこと	Co 協調的でないこと	Ag 愛想の悪いこと	G 一般的活動性	R のんきさ	T 思考的外向	A 支配性	S 社会的外向
D	1.00											
C	0.51**	1.00**										
I	0.50**	0.52**	1.00									
N	0.54**	0.51**	0.56**	1.00								
O	0.51**	0.49**	0.35**	0.47**	1.00							
Co	0.52**	0.40**	0.49**	0.52**	0.46**	1.00						
Ag	0.37**	0.45**	0.39**	0.41**	0.45**	0.40**	1.00					
G	0.20*	0.27**	0.36**	0.27**	0.36**	0.32**	0.48**	1.00				
R	0.23*	0.31**	0.32**	0.22*	0.23*	0.26**	0.51**	0.39**	1.00			
T	0.27**	0.32**	0.33**	0.38**	0.35**	0.33**	0.44**	0.45**	0.42**	1.00		
A	0.38**	0.35**	0.40**	0.36**	0.33**	0.42**	0.50**	0.46**	0.49**	0.43**	1.00	
S	0.35**	0.27**	0.41**	0.27**	0.32**	0.34**	0.35**	0.45**	0.42**	0.33**	0.56**	1.00

無相関検定の有意水準　　*：P ＜ 0.05，**：P ＜ 0.01を示す

NII-Electronic Library Service

Otemae University

表15　ＹＧ特性の主成分分析要約表

n＝199人

因　子	要　素 (特性)	平均点	標準 偏差	第一主成分 因子負荷量	第二主成分 因子負荷量	第三主成分 因子負荷量
情緒安定性 因子群	D（抑うつ性）	8.14	3.63	0.677	−0.431	−0.171
	C（回帰性傾向）	8.10	3.25	0.681	−0.321	0.159
	I（劣等感の強いこと）	7.73	3.85	0.708	−0.225	−0.263
	N（神経質）	7.48	3.61	0.697	−0.406	0.058
社会適応性 因子群	O（客観的でないこと）	7.22	3.29	0.667	−0.254	0.283
	Co（協調的でないこと）	7.85	3.65	0.688	−0.267	−0.133
活動性因子群	Ag（愛想の悪いこと）	8.83	3.10	0.721	0.196	0.323
衝動性因子群	G（一般的活動性）	10.10	3.47	0.617	0.426	0.123
内省性因子群	R（のんきさ）	10.44	2.82	0.587	0.493	0.038
	T（思考的外向）	4.38	3.78	0.621	0.272	0.363
主導性因子群	A（支配性）	6.25	3.73	0.709	0.330	−0.251
	S（社会的外向）	6.29	3.27	0.626	0.334	−0.516
固有値				5.351	1.398	0.808
寄与量				44.6%	11.7%	.6.7%
累積寄与率				44.6%	56.2%	63.0%

3・5・2　主成分分析の結果と考察

YGテストの12特性の粗点から相関行列を求め主成分分析を行った。

これらの結果を要約したものが表15である。

表によれば12特性を３主成分により全体の63％の情報まで説明できることを示している。第１主成分の各特性毎の因子負荷量を見ると、すべての特性値で0.5以上の相関を示し、とくにＩ, Ag, Ａでは0.7を超えている。寄与率も第１主成分のみで45％に達していることから考慮すると、第１主成分は“ＹＧテストにおける12特性値のウエイト”を示していると解釈できる。次に第２主成分について見るとＤからＣoについては因子負荷量がプラス値、AgからＳの特性がマイナス値に分かれている。但し、第２主成分の寄与率は11％と第１主成分の¼程度に低下している。因子負荷量がプラスで比較的高い相関をもつ特性はＧとＲであり、マイナスの場合はＤとＮである。つまりＹＧテストにおける衝動的－非衝動的要因と情緒的安定－情緒的不安定の因子が第２主成分と解釈される。第３主成分については寄与の程度も小さく、因子の同定は困難であるが、Ag, Ｔ特性とＳ特性が相関の大きさが対応していることから、社会的適応・不適応、思考的内向・外向と主導的・非主導的要素を対にし

NII-Electronic Library Service

Otemae University

た成分が表れていると考えられるが、積極的に評価すべきではない。いずれにしろＹＧテストにおける12の性格特性要因の評価と運用方法については永年にわたる先達の研究成果であるが、12特性の粗点を主成分分析法により解析することにより、３主成分によって全体の約63％の情報を把握できたということは、ＹＧテストの粗点から別の視点における計測の指標をうることができるということが言えるであろう。

とくに第１主成分では12特性の強弱関係がある程度推測されたこと、第２主成分ではYG性格テスト用紙の判定要因の境界部分で正負の因子負荷量値に明確に表れたことは、YG性格テストの粗点算出の的確性を示す一つの証左であろうと筆者は考える。

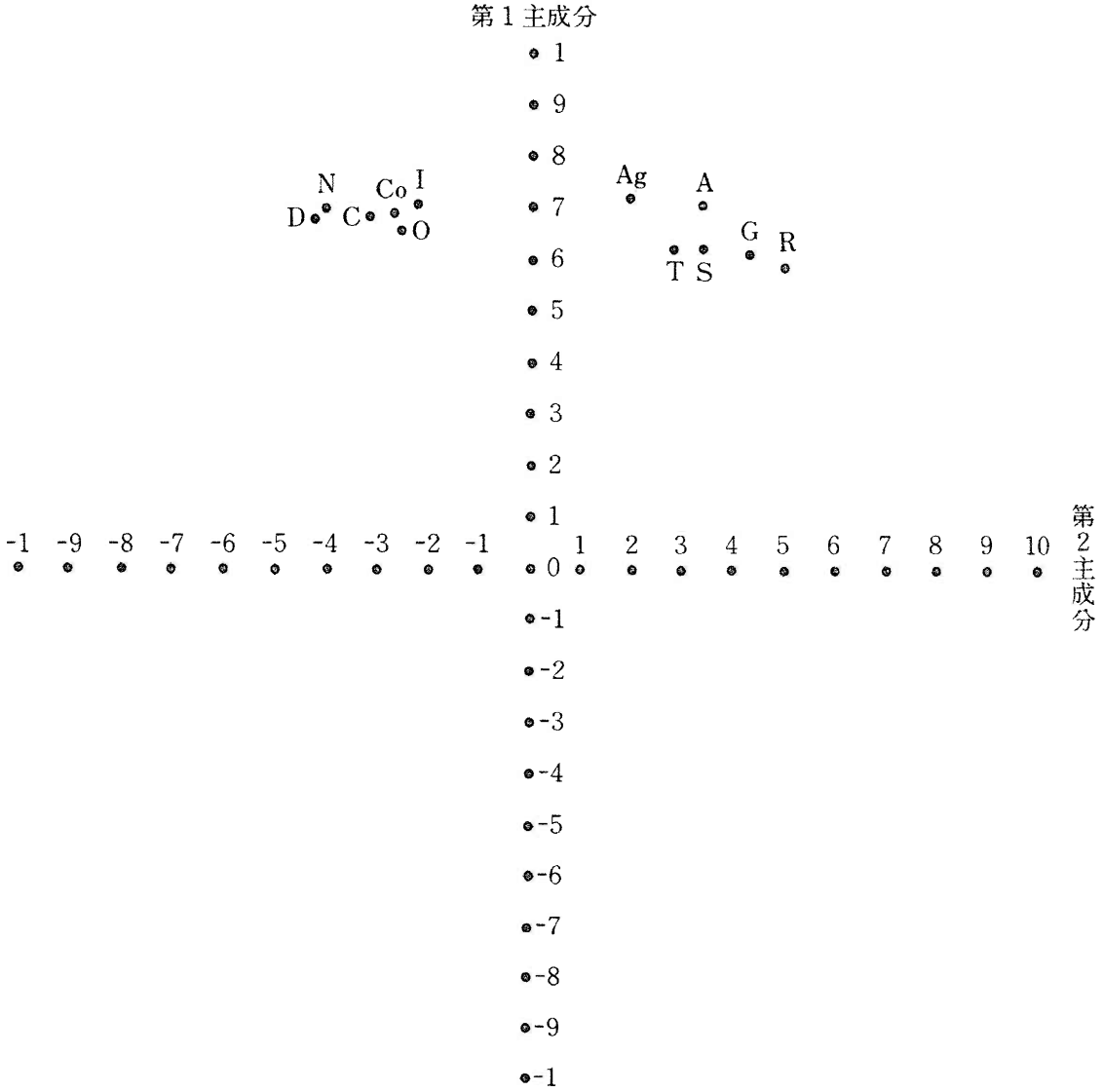

図７　主成分分析（第１主成分と第２主成分）の因子負荷置の布置図

NII-Electronic Library Service

Otemae University

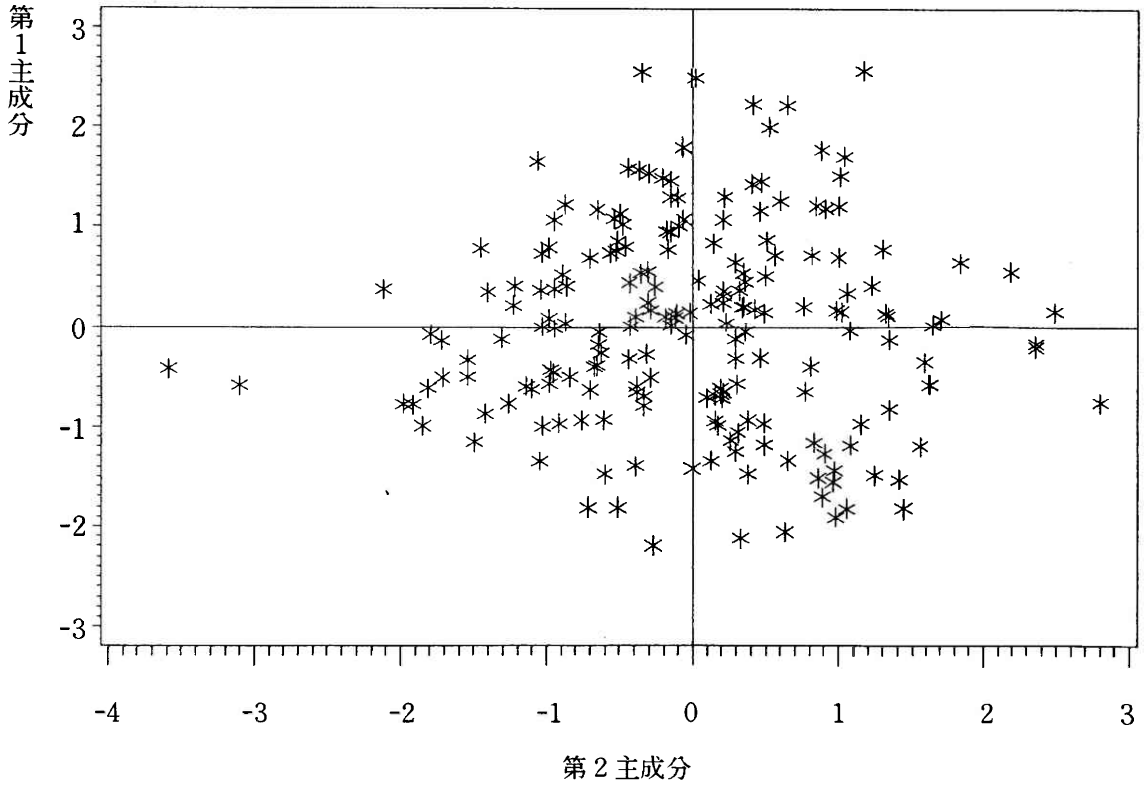

図8　主成分分析における個人スコアの布置図（第1主成分と第2主成分）

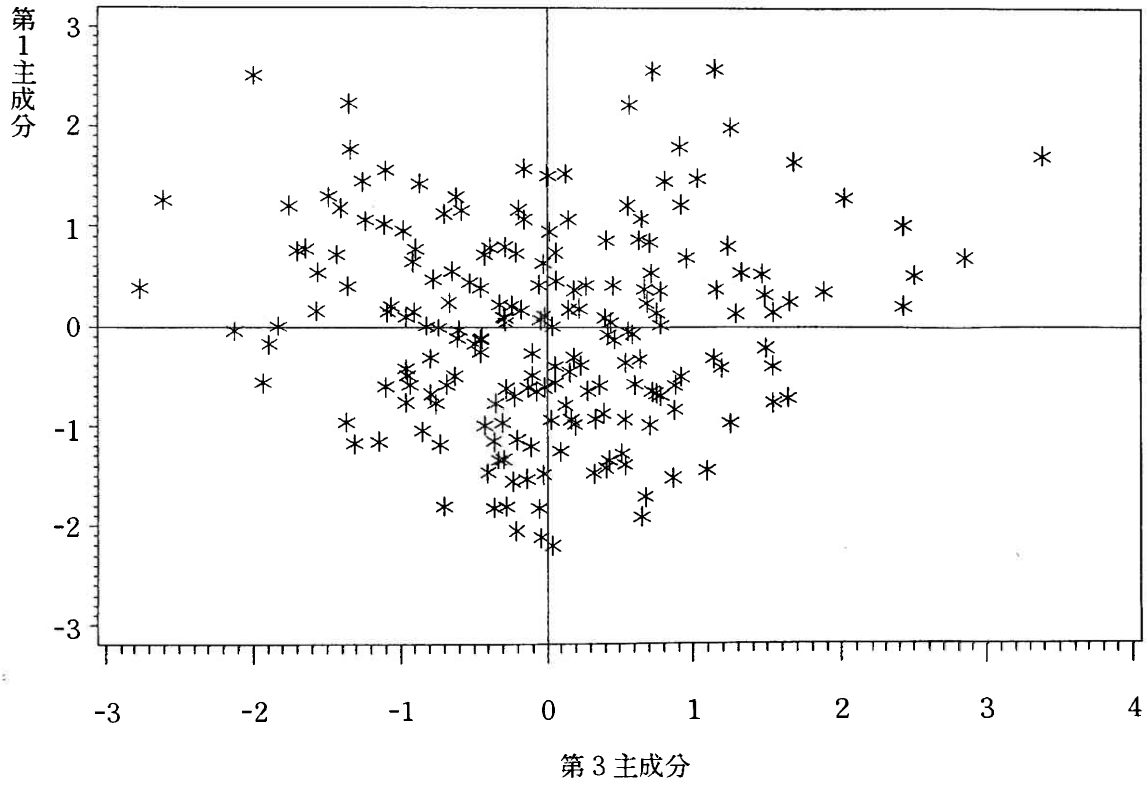

図9　主成分分析における個人スコア布置図（第1主成分と第3主成分）

NII-Electronic Library Service

Otemae University

試験的とはいえ、多数の特性変数をより少ない因子により把握できるならばYG性格テストの新たな応用として活用しうるのではないかとも考えられる。

図7に第1主成分と第2主成分の因子負荷量の布置図を示した。さらに図8、図9は被験者の個人スコアのうち第1主成分と第2主成分、第1主成分と第3主成分の値の散布図を示したものである。

まとめ

被服行動調査についての頻度集計の結果から、次のことが認められる。

本学学生は被服に対して高い関心を持っていること。

被服の価値については

・同調傾向であるが、服装規範に対する若年層の意識の変化などから、同調に反する面もみられる。

・個性化への願望は、個性的であるためには自主的な賢明な判断が要求されることもあり、まだ少ない。

・性的魅力への願望は、潜在意識はあるにしても学生のことでもあり表面化していないようである。

・流行に対しては、半数以上が追随者である。

・経済的な面もかなりあるが、自分で服を作ったり、リフォームすることがあまりないなどの反面もみられる。

・被服の素材については、現代の衣生活（衣服の財産価値はなくなり、貸衣装の利用が多い）に合致しているためか、天然繊維があまり選ばれていない。

和服着用度の項目においては、「夏祭には浴衣」や「お正月には着物」を着装したいと望んでいる者が高い比率を占め、前回[26]の調査よりも漸次増加傾向になっている。次いで成人式には振り袖、卒業式には袴姿を着装したいと望んでいる者が多く、儀式における晴れ着の選択には1つの対応パターンが見られる。

つづいて、「花嫁衣裳にはどのような衣服を着たいと思いますか」では、半数以上の者が「ウェディングドレスと白無垢で打ち掛けの両方」を着たいと思っている。現在、披露宴はますます華美化の傾向をしめし、本調査においても花嫁衣裳は和洋折衷で披露したいと望んでおり、種々の情報誌における調査結果ともほぼ同一傾向を示し、時流に被験者が敏感に対応していることが判った。したがって、被験者層は節々となる儀式や催事には衣服の着わけをして衣生活を楽しんでいる傾向がみられた。

好きなヘアスタイルについては、ソフトウェービー、ロングストレート、ワンレングスとなり、髪型嗜好においては流行に敏感な反応を示している。

好きな色を選択させる調査では、1位がblue系、2位violet系、3位red purple系、4位green

NII-Electronic Library Service

Otemae University

系と続く。色彩嗜好においても髪型嗜好と同様、流行色に敏感に反応している。

着て見たい振り袖としては、色・柄とも現代的感覚のものよりも伝統的感覚で古典的なものが支持されている。

YG性格検査では、特性(いろいろの状況をとおして一貫してあらわれる一定の行動傾向)を性格構成の単位とみなし、特性の組合せによって性格を記述し、説明しようとする立場をとっている[27]が、YG性格検査の12特性についての頻度集計結果から、本学学生の各性格特性の得点分布を6タイプに分類することができた。

タイプ1…D(抑うつ性)とT(思考的外向)、S(社会的外向)が属し、低得点者が相当多く、高得点者が非常に少ない。

タイプ2…C(回帰性傾向)、N(神経質)が属し、平均得点者が低得点よりやや多く、高得点者が非常に少ない。

タイプ3…O(客観的でないこと)とAg(愛想の悪いこと)が属し、低得点者が平均得点者よりやや多く、高得点者が相当少ない。

タイプ4…I(劣等感の強いこと)、G(一般的活動性)、A(支配性)が属し、平均得点者がかなり多く、高得点者が相当少ない。

タイプ5…Co(協調的でないこと)が属し、高得点者が平均得点者よりやや多く、低得点者がかなり多い。

タイプ6…R(のんきさ)が属し、平均得点者が半数以上で、低得点者が相当少ない。

個々の性格特性については、

D(抑うつ性)では楽天的な者が122人(61.3%)、悲観的な者は4人(2.0%)と非常に少ない。

C(回帰性傾向)では約半数が平均得点者で冷静な者は87人(43.7%)とかなり多いが、感情的な者は10人(5.0%)と非常に少ない。

I(劣等感の強いこと)では平均得点数が128人(64.3%)で自信家51人(25.6%)、自信欠如者は20人(10.1%)である。

N(神経質)では神経質でない者91人(45.7%)、平均得点者も93人(46.7%)、神経質な者は15人(7.5%)と少ない。

O(客観的でないこと)では客観的な者が88人(44.2%)、平均得点者78人(39.2%)、主観的な者33人(16.6%)である。

CO(協調的でないこと)では非協調的な者が87人(43.7%)、平均得点者70人(35.2%)、協調的な者42人(21.1%)である。

Ag(愛想の悪いこと)では、消極的な者92人(46.2%)、平均得点者87人(43.7%)、積極的な者は20人(10.1%)と相当少ない。

G(一般的活動性)では平均得点者116人(58.3%)、非活動的な者47人(23.6%)、活

NII-Electronic Library Service

Otemae University

動的な者36人（18.1％）の割合である。

R（のんきさ）では平均得点者が112人（56.3％）のんきな者70人（35.2％）、慎重な者は17人（8.5％）と相当少ない。

T（思考的外向）では、熟慮的な者135人（67.8％）、平均得点者49人（24.6％）、非熟慮的な者は15人（7.5％）と非常に少ない。

A（支配性）では平均得点者111人（55.8％）、服従的な者65人（32.7％）、ソシアルリーダーシップのある支配性大の者は23人（11.6％）と相当少ない。

S（社会的外向）では、地味な人柄の者139人（69.8％）、社交的な者は9人（4.5％）と非常に少ない。

次に、12の性格特性の平均値から、おおむね本学学生は、楽天的、熟慮的で地味な人柄の持ち主であり、その他の性格特性については中庸（平均的）であることがわかった。

被服に対する意識と行動と被服行動との分割表分析の結果については、

男性の目を意識し、かつ同性の目を意識しているグループとその意見に対する否定的なグループが存在しており、意見が二分化されている。一方、同性の目だけを意識しているグループにおいては仲間はずれになりたくないという同調意識からであろう。

「今日どんな服を着ようかと考えると楽しいですか」の設問より「着る服が無くて外出がいやになることがありますか」の設問に強い関心と願望をもっている傾向があることがわかった。衣は人なりといわれるように、外出時には素敵な自分でありたいと願う女性心理のあらわれともいえよう。

服装によって変身願望のある者はブランドの服を着て変身したいと6割近い者が思っている。反面、変身願望があるがブランドにはこだわらない者が1割以上いる。これらを勘案すると、変身するには有名ブランドの服の着用によって簡単に変身が出来、かつ自己満足が得られると考えていることがうかがえられる。一方、ブランド服でなくとも自分らしさで変身したいと思っている者もいることがわかった。

服装によって変身願望のある者は半数の者が知らず知らずに流行に乗せられていると感じている。マスメディアを駆使したメーカーの宣伝効果の影響ともいえよう。一方、変身願望を持ちながら、服装の流行についてはシビアな眼をもっている者もかなりいる。

被服行動調査とYG性格検査の12性格特性との分割表分析については、被服行動調査とYG性格特性との関連度をカイ2乗検定によって調べたところ、両設問間に0.1％レベルの極めて高い有意差が認められたものは15組あり、1％レベルで37組、5％レベルでは48組という多くの項目間で関連性が認められた。

これらの分割表から種々の知見を得ることができたが、いま、0.1％レベルの有意差のあるものについてみれば、次のようになる。

・冷静で理性的な者の半数以上は男性の目を意識していないが、女性の目は意識して服を着

NII-Electronic Library Service

Otemae University

ている。

・劣等感に対して平均的な(中庸)な者は、上手に服を着こなしているとは思わない傾向があり、自信家はこの設問についての賛否が同率となる。

・神経質でない者は、少し高価でもデザインと品質のよいものや、はやりすたりのない服を選び、人の服装については批判はしない傾向がある。

・客観的な者と消極的な者は服のリフォーム(仕立て直し)をしない傾向が強い。

・非活動的な者は上手に服を着こなしているとは思わないし、服のリフォームもしないし、外出時に着る服がなくていやになったり、新しい服を気にいってもすぐに買わない傾向がある。

・慎重傾向の者は周囲の人達と同じような服装をしている方が、気持ちが落ちつくように思っていない。また、人の服装を見て、色々と批判しない傾向が相当強いのは慎重な人でもある。

・地味な人柄の者が個性的な服を着る方がよいと思う傾向が強い。

主成分分析の結果、3主成分で全情報量の63%が説明できた。

第1主成分は、YG12性格特性のウエイトであり、第2主成分は、YGテストにおける衝動的ー非衝動的要因と情緒的安定ー情緒的不安定の因子であると解釈される。

第3主成分については寄与の程度も小さく、因子の同定は困難であるが、社会的適応・不適応、思考的内向・外向と主導的・非主導的要素を対にした成分が表れていると考えられる。

YGテストにおける12性格特性の粗点を主成分分析法によって解析することにより、3主成分によって全体の63%の情報を把握できたこと、とくに第1主成分で12特性の強弱関係がある程度推測され、第2主成分ではYG性格テスト用紙の判定要因の境界部分で正負の因子負荷量値に明確に表れたことは、YG性格テストの粗点算出の的確性を示す一つの証左であると考えられる。

謝　辞

分析に当たり、御助言を賜りました京都大学大型計算機センター高井孝之氏に厚く御礼を申し上げます。

また、調査にご協力いただきました本学研究室の葉山恵美氏、西八重美氏、川嶋伸子氏に厚く御礼申し上げます。

NII-Electronic Library Service

Otemae University

〔引用文献〕

1） M・J・ホーン／L・M・ガレル：ファッションと個性、昭和堂（1983).
2） 柳瀬徹夫ほか：日本人の色彩嗜好（5）、色彩研究、(1983).
3） 髪型クリップ'91：主婦と生活社、(1991).
4） 特選きものカログ'91 年版：主婦と生活社、(1990).
5） 八木俊夫：新版　YGテスト実務手引、日本心理技術研究所、(1990).
6） SAS USER'S GUIDE：Basic 1982 Edition, SAS Institute Inc. (1982).
7） 阿倍幸子ほか：衣生活論、同文書院（1990).
8） 藤原康晴ほか：家政誌、40、137（1989).
9） 笹山益子、青海邦子：性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について、大手前女子短大研究集録、8（1988).
10） 阿倍幸子ほか：前掲書.
11） 笹山・青海：前掲書（1988).
12） 笹山・青海：前掲書（1988).
13） 中川早苗他：(第一報）フォーマルな場面における晴れ着の選び方について、日本繊維機械学会誌、(1988).
14） 井筒雅風：日本女性服飾史、P116、光琳社出版（1986).
15） 「復古調」：朝日新聞、2月8日、(1982).
16） 髪型クリップ91：前掲書.
17） 安愛三他：韓国女性と日本女性の衣服嗜好色に関する比較研究、日本色彩学会誌、VOL.13, NO.2 (1989).
18） 笹山益子・青海邦子他：Color Harmony に関する研究（第1報）、大手前女子短大研究集録、6 (1986).
19） 松岡武：男らしさ、女らしさと色の選び方、日本繊維機械学会誌（1988).
20） 笹山・青海他：前掲書（1986).
21） 安愛三他：前掲書.
22） 笹山・青海：前掲書（1988).
23） 笹山・青海：前掲書（1988).
24） 阿倍幸子ほか：前掲書.
25） 神山　進：衣服と装身の心理学、関西衣生活研究会（1990).
26） 笹山・青海：前掲書（1988).
27） 詫摩武俊・依田明：性格、大日本図書（1990).

NII-Electronic Library Service